

JICA海外協力隊OB・OG向け

CROSSROADS

# クロスロード

2019  
別冊



特 集

## Tokyo 2020 から見える 協力隊の可能性



## JICA海外協力隊OB・OGの皆様へ

皆様におかれましては、途上国での活動を終えられた後も様々な形でJICAボランティア事業に対しご支援を賜り誠にありがとうございます。

JICAボランティア事業が、事業開始当初より相手国政府や現地の方々から「顔の見える」国際貢献として54年にわたり高い評価をいただいている背景には、今、現地で熱い想いを持って活躍している隊員だけでなく、帰国後も絶えることなく情熱をもって本事業を支えてくださるOB・OGの皆様が存在があります。

日本国内では人口減少、少子高齢化等深刻化する社会問題を抱え、更に在留外国人の増加に向けた外国人材受け入れのための環境整備や多文化共生社会の実現など、「第二の開国」とも言える大きな転換期を迎えております。このような社会背景の中、JICA海外協力隊を経験した皆様が新たな社会づくりにおいて果たしていく役割は大きく、国内関係者の皆様からOB・OGの皆様に注がれる期待を日々実感しております。その意味において、JICAボランティア事業の大きな価値を示すものとして、皆様の活躍が改めて脚光を浴びているということになります。

本誌を手にした皆様におかれましては、JICA海外協力隊としての活動の経験ややりがい、その価値等を周りの方々にお伝えいただけると幸いです。

新時代の令和が始まり、新たな門出を迎えた我が国において、希望を与える事業として更に大きく育ち、輝きを放つよう、OB・OGの皆様と一体となって、事業を進めて参りたいと考えております。皆様には、本事業の貴重なパートナーとして、これまでと変わらぬご指導ご鞭撻とご支援をお願い申し上げ、OB・OG向け『クロスロード』発行にあたってのご挨拶とさせていただきます。

2019年12月  
青年海外協力隊事務局長  
小林広幸

# クロスロード

04 JICA海外協力隊派遣現況

06 JOCV Interview

地域ぐるみで外国人労働者への包括的支援を始動  
矢島亮一さん（パナマ・村落開発普及員・1998年度3次隊）

10 JICAボランティア事業の動き

特集

## Tokyo 2020から見える 協力隊の可能性

12 INTRODUCTION

14 日本人選手の指導

16 海外選手の指導

18 大会運営・開催をサポート

20 ホストタウン事業の推進

22 Award Winners in 2019

28 JOCV's BOOKS ～協力隊OB・OGの著書～

30 資料編

JICA海外協力隊OB・OG会

OB・OGによるSOCIAL BUSINESS

OB・OGによる国際協力NGO

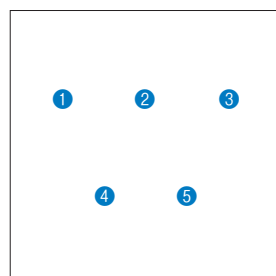
34 進路開拓インフォメーション

35 JICA INFORMATION



表紙写真

- ① 国内第2の都市キャンディで高校ラグビー部への指導を行う伊藤悠理さん（スリランカ・ラグビー・2016年度2次隊）
- ② 首都ポートビラ市の祭りでの土屋圭悟さん（バヌアツ・サッカー・2016年度1次隊）が企画・開催したストリートサッカー大会
- ③ ビンドウラ・スポーツ・アカデミーの男子陸上競技選手に指導をする山村昂平さん（ジンバブエ・陸上競技・2016年度3次隊）
- ④ 「エチオピアン ユース スポーツ アカデミー」の女子卓球選手に指導をする佐野太一さん（エチオピア・卓球・2017年度1次隊）
- ⑤ 指導するスイミングクラブで選手兼コーチの男性にスタートの指導をする田村絵果さん（ボリビア・水泳・2016年度3次隊）



※本誌では、JICA海外協力隊の方々（経験者を含む）について、次のように表記しています。

国際協力さん（ウガンダ・青少年活動・2019年度2次隊）

氏名	派遣国	職種	隊次
----	-----	----	----

「十字路」を意味する本誌の誌名は、国際協力に必要な「対話と行動」というイメージにも通じることに由来します。

ロゴタイプデザイン：S+M DESIGN FACTORY

レイアウト：S+M DESIGN FACTORY

印刷・製本：弘報印刷（株）





# JICA海外協力隊派遣現況

JICA海外協力隊の派遣者数の現況をまとめました。  
2019年10月末現在、累計人数は延べ5万3,860人に達し、76カ国で1,926人が活動中です。

※表とグラフの数値は2019年10月末現在の延べ人数  
※JV：青年海外協力隊員 SV：シニア海外協力隊員  
NJV：日系社会青年海外協力隊員 NSV：日系社会シニア海外協力隊員

## 派遣国別 (派遣中)

### ■ 欧州地域

国名	JV	SV	合計
セルビア	4	2	6
合計	4	2	6

### ■ 中東地域

国名	JV	SV	合計
イラン		1	1
エジプト	19	2	21
モロッコ	19	4	23
ヨルダン	35		35
合計	73	7	80

### ■ アフリカ地域

国名	JV	SV	合計
ウガンダ	34	1	35
エスワティニ	4	1	5
エチオピア	20		20
ガーナ	49	2	51
ガボン	18	3	21
カメルーン	26	2	28
ケニア	43	4	47
ザンビア	65	10	75
ジブチ	12		12
ジンバブエ	4		4
セネガル	37	1	38
タンザニア	67	1	68
ナミビア	11		11
ベナン	37		37
ボツワナ	18		18
マダガスカル	34		34
マラウイ	36		36
南アフリカ共和国	6	4	10
モザンビーク	31	3	34
ルワンダ	42		42
レソト	1	1	2
合計	595	33	628

### ■ アジア地域

国名	JV	SV	合計
インド	18		18
インドネシア	15	1	16
ウズベキスタン	22	5	27
カンボジア	18	6	24
キルギス	27		27
タイ	24	4	28
タジキスタン		4	4
中華人民共和国	7		7
ネパール	55	4	59
東ティモール	34		34
フィリピン	31	2	33
ブータン	13	3	16
ベトナム	34	12	46
マレーシア	15	6	21
ミャンマー	18	4	22
モルディブ	16		16
モンゴル	45		45
ラオス	39	1	40
合計	431	52	483

### ■ 大洋州地域

国名	JV	SV	合計
キリバス	7		7
サモア	20	1	21
ソロモン	26	4	30
トンガ	14	1	15
バヌアツ	20	4	24
バプアニューギニア	32	4	36
パラオ	10	5	15
フィジー	22	4	26
マーシャル	5	1	6
ミクロネシア	14	5	19
合計	170	29	199

### ■ 中南米地域

国名	JV	SV	NJV	NSV	合計
アルゼンチン		10	3	6	19
ウルグアイ		5			5
エクアドル	41	5			46
エルサルバドル	10				10
キューバ		1			1
グアテマラ	22	2			24
コスタリカ	23	8			31
コロンビア	18	10			28
ジャマイカ	22	8			30
セントビンセント	3				3
セントルシア	9				9
チリ	2	5			7
ドミニカ共和国	22	4	3	2	31
ニカラグア		1			1
パナマ	16	1			17
パラグアイ	37	1	9	3	50
ブラジル			71	17	88
ペリウズ	14				14
ペルー	41	6			47
ボリビア	35		3	1	39
ホンジュラス	21				21
メキシコ	2	7			9
合計	338	74	89	29	530

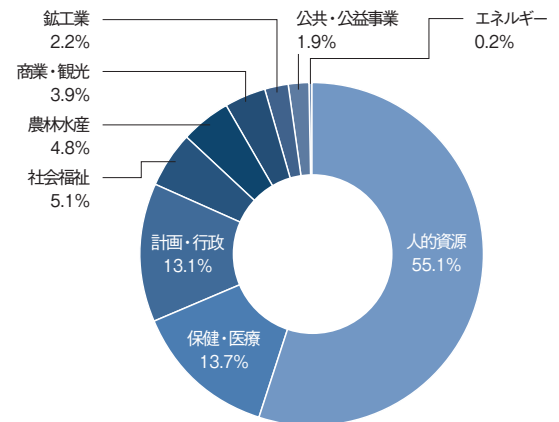
## 合計

	JV	SV	NJV	NSV	合計
派遣中	1,611 (682／929)	197 (138／59)	89 (33／56)	29 (11／18)	1,926 (864／1,062)
累計	45,296 (24,069／21,227)	6,515 (5,267／1,248)	1,503 (575／928)	546 (252／294)	53,860 (30,163／23,697)

※括弧内は男女の内訳（男性／女性）

## 分野別 (派遣中)

分野名	JV	SV	NJV	NSV	合計
計画・行政	233	19	1		253
公共・公益事業	22	14			36
農林水産	77	13		2	92
鉱工業	21	21			42
エネルギー	1	2			3
商業・観光	52	23		1	76
人的資源	886	77	81	18	1,062
保健・医療	236	19	7	2	264
社会福祉	83	9		6	98



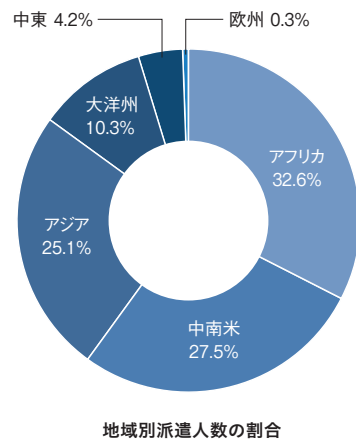
分野別派遣人数の割合

## 出身 都道府県別 (派遣中)

都道府県名	JV	SV	NJV	NSV	合計
北海道	65	9	7	1	82
青森県	19		1		20
岩手県	11		1	1	13
宮城県	15	3	1		19
秋田県	8	2			10
山形県	17	1	1		19
福島県	27	1	1		29
茨城県	36	4	1		41
栃木県	14	3			17
群馬県	30		3	1	34
埼玉県	65	10	2	1	78
千葉県	60	8	3	1	72
東京都	195	35	6	8	244
神奈川県	102	15	4	2	123

都道府県名	JV	SV	NJV	NSV	合計
新潟県	24	5	1		30
富山県	12	2	1	1	16
石川県	14	2	2		18
福井県	10	2			12
山梨県	11				11
長野県	31	2	2	1	36
岐阜県	32	3	3		38
静岡県	53	7		2	62
愛知県	88	9	11	3	111
三重県	28	4	1		33
滋賀県	16	1	3		20
京都府	40	6			46
大阪府	109	16	3		128
兵庫県	89	8	5	1	103
奈良県	17	2			19
和歌山県	13	1	1		15

都道府県名	JV	SV	NJV	NSV	合計
鳥取県	8		1		9
島根県	10	2		1	13
岡山県	28		1	1	30
広島県	29	9	1		39
山口県	22	3	2		27
徳島県	8	3			11
香川県	10	3	2	1	16
愛媛県	15	1	3		19
高知県	13				13
福岡県	58	6	6		70
佐賀県	13		1		14
長崎県	28	2	1	1	32
熊本県	28		1		29
大分県	7	2			9
宮崎県	17	2	1	1	21
鹿児島県	38	1	2	1	42
沖縄県	28	2	3		33



地域別派遣人数の割合



# 地域ぐるみで 外国人労働者への 包括的支援を始動

群馬県甘楽町<sup>かんらまち</sup>で20年近くにわたり、NPO法人自然塾寺子屋の代表として農業を通じた地域づくりに取り組んできた協力隊経験者の矢島亮一さん。人材不足が深刻化するなか、同県の企業で外国人技術者の雇用が活発化し始めたのを受け、今年、彼らの暮らしやすさを支援する新たな仕組みを地域の人々とともにスタート。その概要についてご本人にうかがった。

## 「ともに暮らす仲間」として

——矢島さんたちが群馬県で立ち上げた外国人労働者に関する支援の新たな仕組みにつき、概要をお教えてください。

矢島 「グローバル人材生活安心パック」(以下、「安心パック」と名付けているサービス)なのですが、群馬県甘楽町にある人材紹介会社の株式会社シバタデザインパートナーズ<sup>※1</sup>、群馬県で医療通訳者の派遣などを行っているNPO法人「群馬の医療と言語・文化を考える会(MIG)」<sup>※2</sup>、群馬県甘楽町で地域づくりの活動などを行っているわれわれNPO法人「自然塾寺子屋」の三者が組んで運営するものです。雇用する外国人に関して何か問題が発生すると、まず私自身が「総合窓口」としてその企業からの相談を受け付け、問題の内容によってMIGと自然塾寺子屋のどちらかに対応を割り振ります。「病院で通訳が必要になった」といった医療に関することならMIGに対応してもらい、「役所の手続きがうまく進まない」といった問題や社内での人間関係のトラブルなどならば自然塾寺子屋が対応するという具合です。企業に安心感を持って外国人労働者を雇っていただくために、有事の際の支援をあらかじめ約束するものであり、「保険」に近いイメージのサービスです。シバタデザインパートナーズが「外国人労働者ひとり当たりいくら」という年間契約を企業との間で結び、MIGと自然塾寺子屋がシバタデザインパートナーズから有料で実際の支援業務を請け負うという形にしています。

——対象となっている企業は何社くらいでしょうか。

矢島 現在の契約企業は群馬県内の十数社で、対象となっている外国人労働者は20人ほどのベトナム人です。いずれも「技能実習生」<sup>※3</sup>としてではなく、「高度専門職外国人」<sup>※4</sup>として今年9月に雇用された方々です。技能実習生は日本の監理団体を通して受け入れられるのですが、その場合、彼らに関する問題は受入窓口となっている監理団体が対処することになっています。一方、高度専門職外国人の場合は、受け入れる企業が自力でそれをこなさなければなりません。しかし、「外国人」に慣れない企業にとっては荷が重い。それを代わって担おうというのが「安心パック」の趣旨であり、群馬県で高度専門職外国人の受け入れが活発化し始めたのを受けて立ち上げたサービスでした。まだスタートしてまもないため、具体的な支援をした例はないのですが、19年中にさらに20人ほどのベトナム人が群馬県内で高度専門職外国人として働き始め、「安心パック」の対象になる見込みですので、徐々に相談も増えてくるだろうと思います。

——群馬県内の企業に限定して契約しているのですか。

矢島 そのようにしています。群馬県以外にも手を広げ、規模の大きなビジネスにするとというやり方もあるかと思いますが、私はそういうことをやりたいわけではありません。外国から来て働いてくれる方々を、それぞれの地域の方々が「使い勝手の良い労働者」としてではなく、「ともに暮らす仲間」として受け入れる。目指すのはそうした「共生」のあり方であり、群馬県以外については、それぞれの地域の方々の手で「安心パック」のようなものを立ち上げていただくのがいいだろうと

考えています。

甘楽町の方々に外国人労働者を「ともに暮らす仲間」として受け入れていただくため、現在は「安心パック」以外の仕組みを立ち上げる準備も進めています。そのひとつが、「里親制度」と名付けたものです。甘楽町には、仕事をリタイヤしたけれども、まだ人のために何かをしたいという意欲の強い「お節介」な人が多い。彼らに外国人労働者たちの面倒を見る、言わば「里親」になっていただくという仕組みです。具体的には、休日に外国人労働者を対象とした日本語教室や料理教室などを開いていただくことなどを考えています。こちらは高度専門職外国人だけでなく、技能実習生も対象とする予定で、いずれも受け入れ先の企業から受講料を支払っていただける見込みです。甘楽町には人口の1パーセントに当たる100人ほどの外国人が暮らしていますので、日本語教室などはおそらく十数人程度の規模で始めることになると思います。

## 地方で人材不足が深刻化するなか

——群馬県で高度専門職外国人の受け入れが活発化し始めたということは、地方はそれだけ人材不足が進んでいるということでしょうか。

矢島 おっしゃるとおりです。地方は一般に第一次産業と第二次産業がメインですが、いずれも本当に人手不足です。第一次産業の農業については、農家の高齢者率が非常に高く、群馬県では平均年齢が70歳近くに達している。機械化やAIの導入によって以前より少ない人手で農業ができるようにはなっているのですが、高齢者



Yajima Ryoichi

## 矢島亮一さん

- パナマ・村落開発普及員・1998年度3次隊
- NPO法人自然塾寺子屋 理事長

やじま・りょういち●1964年生まれ、群馬県高崎市出身。東京農業大学を卒業後、カナダでの山岳ガイド、日本でのホテル勤務などを経験。1999年に協力隊参加。農村や小・中学校で農業指導に従事する。帰国後の2001年、群馬県の甘楽富岡地域で農業を通じた地域づくりなどに取り組む任意団体「自然塾寺子屋」を設立。03年に同団体をNPO法人化し、理事長に就任。

- ※1 株式会社シバタデザインパートナーズ…2018年10月設立。19年11月に社名変更し、HPはリニューアル中(旧社名は株式会社シバタエンジニアリング)。
- ※2 NPO法人群馬の医療と言語・文化を考える会(MIG)…<https://www.iryotsu-gunma.org>
- ※3 技能実習生…「出入国管理及び難民認定法」上の「技能実習」の在留資格により、日本で報酬を伴う実習を行う外国人。
- ※4 高度専門職外国人…「出入国管理及び難民認定法」上の「高度専門職」の在留資格により、日本で就労する外国人。日本の学術研究や経済の発展に寄与することが見込まれる高度の専門的な能力を持つ外国人に与えられる在留資格で、在留期間や配偶者の就労などさまざまな優遇措置がある。

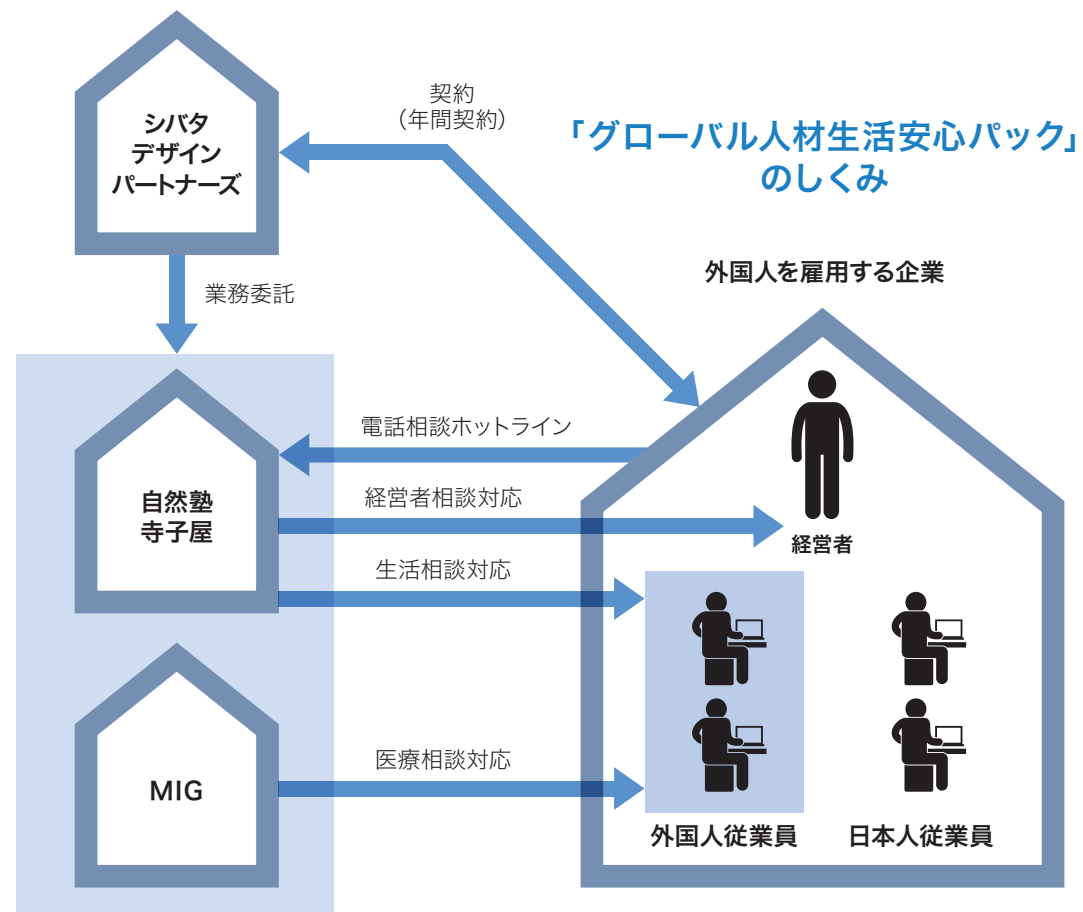


## NPO法人 自然塾寺子屋

<http://terrakoya.or.jp>

設立：2001年(法人化は2003年)  
代表者：矢島亮一(理事長)  
所在地：群馬県甘楽郡甘楽町小幡7(甘楽事務所)  
事業内容：●農産物の生産・加工・販売  
●グリーンツーリズム・アグリツーリズム  
●農村フィールドワーカーの養成、ほか





※その他、ピザの取得・更新や法律に関するトラブルは連携する県内各地の行政書士が対応。

「地方」を選ぶ協力隊経験者

—— 今後、群馬県の企業で高度専門職外国人はどのような存在になっていくと考えていますか。

矢島 柴田合成の例で言うと、高度専門職外国人の技術者には、いずれ管理職に就き、定年まで働いてもらいたいと柴田さんは考えています。とにかく、人材としての評価が高い。もともと優秀なうえ、非常に真面目で、日本語でメモをとったり、日本語の歌を覚えて日本人社員と一緒にカラオケで歌ったりといった努力を惜しまないので、日本語の上達が速いそうです。そうした話を聞くと、群馬県で高度専門職外国人として雇われるベトナム人は今後ますます増えていくのだろっと思えます。

役買い、協力隊時代に現地で受けた恩を返したいと思っている人も多いはずですが、だからこそ、「ボランティア」としてではなく、「仕事」として外国人の方々に支援する道をつくっていききたいという思いが私にはあります。「ボランティア」では、どうしても割ける時間や労力に限りがあり、外国人に対する協力隊員の思いを存分に発揮するのが難しいからです。「安心パック」も、そうした意図から「有料」のサービスとして立ち上げたのです。さきほどお話しした「里親制度」の日本語教室でも、日本語教師自体は日本語教師の資格を持っていない方々にボランティアに近い形で務めていただくけれども、教室をマネジメントする役目は、日本語教師の資格を持ち、かつ海外経験もある日本語教師隊員のOB・OGに有給で担っていただくことと計画しています。

すると、「安心パック」の仕事も増えていく可能性が高い。現在、自然塾寺子屋やMIGのメンバーは、ほかの仕事に携わりながら、言わば「サイドビジネス」として「安心パック」の仕事もしていくという体制ですが、いずれ専従スタッフを置くようになるのだろっと思っています。

—— 最後に、読者である協力隊経験者に向けたメッセージをお願いします。

矢島 さきほど、「給料の低さを補うような魅力を地域につくらなければ、外国人にも働き場所として選んでもらえなくなる」というお話をしましたが、協力隊経験者のなかには、「地方」で働くことに「給料」に替えられない魅力を感じ、一ターンのなどでそれを実践している人も少なくないと思います。例えば、都市部の大きな企業では「歯車の一部」としての役割をこなすことが求められがちですが、「地方」では、自分で仕事を立ち上げ、自分で回していくというダイナミックな働き方もできる。そうした点に魅力を感じ、「地方」を働き場所を選んだ協力隊経験者たちに、今、もっとも求められているのが、外国人労働者と地域の方々との間の「橋渡し」をする役目だろっと思います。そうした仕事に関心を持つ方々に、われわれが試み始めた「安心パック」のアイデアがひとつのヒントになればうれしいですね。

\*5 株式会社柴田合成…  
http://www.shibatagousei.co.jp

\*6 ウィン・ウィン・ジャパン…  
http://winwinjapan.vn

は機械やAIをなかなか使いこなせないわけです。そうして、耕作放棄地がどんどん増えている。第二次産業の工業については、工場のラインで製造に携わるにしても、技術者として設計などに携わるにしても、都市部の企業のほうが給料や知名度が高いため、日本人はそちらに流れてしまう。そうすると、地方の産業は外国人の方々に担っていただくほかないのです。

しかし、今のままでは外国人の方々にすら、日本の地方を働き場所として選んでいただくことができなくなってしまうおそれがあります。例えば、英語ができるフィリピン人は、カナダやオーストラリア、ニュージーランドなどの英語圏で働くこともできるのですが、カナダの最低賃金などは州によっては15ドル、1500円近くにはぼるのに対して、群馬県の最低賃金は835円です。そうしたなかで外国人の方々に働き場所として選んでいただけるような地域にするためには、「ここなら外国人でも安心して暮らせる」など、給料の低さを補うような魅力をつくっていかなくてははいけない。「安心パック」がそうした「魅力」のひとつになることを期待しています。

—— シバタデザインパートナーズと組んだのはどういう縁からでしょうか。

矢島 シバタデザインパートナーズは、甘楽町に本社を置く株式会社柴田合成という歴史のある地元企業の社長が、群馬県の企業に高度専門職外国人を紹介することを目的に昨年設立した企業です。その社長の息子で、シバタデザインパートナーズの営業を担当する柴田晃佑<sup>しibatagousei</sup>さんは、私が甘楽町の問題について常々議論する仲間のひとりでした。シバタデザインパートナ

ーズの設立も、「安心パック」の立ち上げも、私が柴田さんから「人材不足」に関する悩みを聞いたのが発端です。

柴田合成は銀行の信用格付けも最上位の優良企業であるものの、「都市部に人材が流れてしまう」という悩みを抱えていました。大学の工学部などを出た日本人を技術者として採用したいけれども、なかなかつかまらないと。一方、私はベトナム人を日本に送り出している現地の人材紹介会社「ウィン・ウィン・ジャパン」に伝手がありました。かつて自然塾寺子屋で技術補完研修を受けて協力隊に参加し、現在はベトナムに住む女性を介して知った企業です。その協力隊OGを通じてウィン・ウィン・ジャパンは信用できることがわかっていたので、その社長が来日した際、柴田さんに紹介しました。人材不足を補うために、高度専門職外国人の採用を前向きに考えたいとおっしゃっていたからです。力量をきちんと確認してから採用を決めたいということで、ウィン・ウィン・ジャパンが紹介候補に挙げたベトナム人技術者数名に筆記試験を行ったところ、柴田合成に応募する日本の大学生の平均を3割も上回る点数だったそうです。その後、柴田さんが現地に赴いて面接試験も行ったのですが、「パーフェクトだった」と驚いていました。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしょうか。

矢島 MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした

—— MIGもやはり以前から付き合いをもちだつたのでしよう。

—— 代表を務める山口和美<sup>やまぐちみづみ</sup>さんは、私が協力隊の任期を終えて地元の群馬に戻った時期に、群馬県庁の多文化共生室長を務めていらした方です。私は自然塾寺子屋を立ち上げ、なんとか協力隊経験を生かして地域を盛り上げる仕事をした



### 協力隊経験者こそ仕切り役に

を退職された後、群馬大学で多文化共生に関する講師を4年間されてからMIGを立ち上げました。柴田さんから相談を受け、真つ先に「組める」と思い当たったのが山口さんでした。

—— 外国人労働者に関する活動に取り組まれるのは、やはり協力隊経験があったからこそでしょうか。

矢島 もちろんです。文化が異なる者同士が「共生」するうえで、互いの文化を尊重し合うことがきわめて重要であることを、協力隊員は現地で学んでくる。だからこそ、帰国後、自分の暮らす地域が外国から働きに来た方々と「共生」を図るうえで、その「仕切り役」になるべきだと考えています。「安心パック」でも、「外国人



# JICAボランティア事業の動き

JICAボランティア事業に関するこの1年の主な動きをまとめました。



## 派遣

### ■年度の派遣回数が「4回」から「3回」に変更

JICA海外協力隊は、これまで年4回の派遣でしたが、2019年度より年に3回の派遣となりました。訓練前訓練と派遣の時期は右上の表のとおりです。

### ■イランへの派遣が開始

2019年6月、イランに初めてJICA海外協力隊員が派遣されました。

### ■派遣開始から節目を迎えた国

2019年にJICA海外協力隊の派遣開始から節目の年を迎えたのは右下の表の国々です。

隊次	派遣前訓練の時期	派遣の時期
1次隊	4月下旬～7月上旬	7月～8月
2次隊	9月上旬～11月中旬	11月～12月
3次隊	1月上旬～3月中旬	3月～4月

周年	派遣国
40周年（1979年派遣開始）	ソロモン
30周年（1989年派遣開始）	グアテマラ、ジャマイカ、ジンバブエ、ミクロネシア



## 募集 広報

### ■Facebookページが5万「いいね！」

2013年9月に開始した「JICA青年海外協力隊事務局 Facebookページ（URLは裏表紙をご覧ください）」が、19年9月6日に5万「いいね！」を突破しました。

### ■俳優の斎藤工さんが JICA海外協力隊の活動を紹介

2019年3月17日、俳優の斎藤工さんがJICA海外協力隊の「今」を追う旅に出るテレビ番組『いつか世界を変える力になる』の第3弾がBSフジで放送されました。斎藤さんが訪れたのは、協力隊の任期を終えたOB・OGが活躍する現場。この番組は「YouTube / JICA青年海外協力隊事務局公式チャンネル」（URLは裏表紙をご覧ください）で公開中です。

### ■「アースデイ東京」に初出展

2019年4月20・21日に東京・代々木公園のイベント広場で開催された「アースデイ東京」に、青年海外協力隊事務局として初出展しました。特設テントではテレビ番組『いつか世界を変える力になる』の上映や、OB・OGが派遣国や活動の様子を語るトークイベント「協力隊の歩き方」を実施。晴天にも恵まれ、家族連れや協力隊参加に興味を持つ方々に向けて、現地の人々と共に問題解決に取り組む隊員の活動を発信しました。来年も出展を予定しておりますので、是非お立ち寄りください。

### ■2019年度の応募者数と合格者数

JICA海外協力隊の2019年度の応募者・合格者（秋募集は未定）は下の表のとおりです。

募集期	派遣種別	応募者		合格者	
		小計	合計	小計	合計
2019年度春募集	一般案件 （青年海外協力隊／日系社会青年海外協力隊／海外協力隊／日系社会海外協力隊）	986	1132	457	488
	シニア案件 （シニア海外協力隊／日系社会シニア海外協力隊）	146		31	
2019年度秋募集	一般案件 （青年海外協力隊／日系社会青年海外協力隊／海外協力隊／日系社会海外協力隊）	1250	1400	（未定）	（未定）
	シニア案件 （シニア海外協力隊／日系社会シニア海外協力隊）	150		（未定）	



## 人事



### ■JICA青年海外協力隊事務局長の就任

2019年8月1日に、前任の山本美香に替わり、小林広幸（左写真）がJICA青年海外協力隊事務局長に就任しました。小林事務局長は、1992年度1次隊の理数科教師隊員としてタンザニアに派遣された後、96年にJICAに入構。ルワンダ事務所長、産業開発・公共政策部次長、四国センター所長を経て、現職に着任しました。



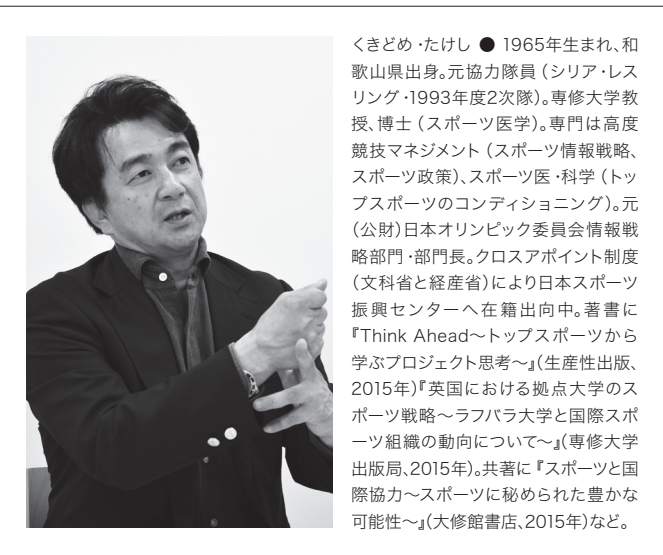
# Tokyo 2020

から見える

## 協力隊の可能性

INTRODUCTION ▶▶▶

### 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と 青年海外協力隊



くきどめ たけし ● 1965年生まれ、和歌山県出身。元協力隊員（シリア・レスリング・1993年度2次隊）。専修大学教授、博士（スポーツ医学）。専門は高度競技マネジメント（スポーツ情報戦略、スポーツ政策）、スポーツ医・科学（トップスポーツのコンディショニング）。元（公財）日本オリンピック委員会情報戦略部門・部門長。クロスアポイント制度（文科省と経産省）により日本スポーツ振興センターへ在籍出向中。著書に『Think Ahead〜トップスポーツから学ぶプロジェクト思考〜』（生産性出版、2015年）『英国における拠点大学のスポーツ戦略〜ラフバラ大学と国際スポーツ組織の動向について〜』（専修大学出版局、2015年）。共著に『スポーツと国際協力〜スポーツに秘められた豊かな可能性〜』（大修館書店、2015年）など。

協力隊の2年間は言葉、宗教観、風土が違うなかでの生活で強いストレスを感じます。それに耐えながらも現地に馴染むという体験はものすごく貴重です。ときに援助慣れなどを目にし、本当に協力活動が必要なのかと葛藤しますが、留学と違い協力隊は

2020大会組織委員会や関係団体、ホストタウンとなった自治体などで働く協力隊OB・OGがいます。今後大会ボランティアやホストタウンのボランティアとして数多くの協力隊OB・OGが活躍することでしょう。それぞれが協力隊経験で身につけた語学力やネットワークなどを生かして活躍しています。そのなかでも異文化での経験は、東京2020以降もスポーツを通じた開発が発展するために期待される力であると考えています。

#### 東京2020のレガシーを育む力に

東京2020に向けて、指導者やコーチ、東京2020大会組織委員会や関係団体、ホストタウンとなった自治体などで働く協力隊OB・OGがいます。今後大会ボランティアやホストタウンのボランティアとして数多くの協力隊OB・OGが活躍することでしょう。それぞれが協力隊経験で身につけた語学力やネットワークなどを生かして活躍しています。そのなかでも異文化での経験は、東京2020以降もスポーツを通じた開発が発展するために期待される力であると考えています。

1964年に東京オリンピックが開催され、その開催に向けて1961年に「スポーツ振興法」ができました。その後2011年、スポーツ振興法を50年ぶりに全部改正し「スポーツ基本法」が成立しました。2つのコンセプトの違いは簡単に言う「Development of Sport」から「Development through Sport」に変わったことです。1961年はまだ「スポーツとはなんぞや」と言われていた時代で、スポーツ自体が開発途中でした。

50年が経ち、スポーツの捉え方にも変化が起こります。スポーツを通して人に、社会に、世界に、さまざまな社会的な課題に対して何ができるのか



P14  
[CASE1]  
日本人選手の指導

P16 [CASE2]  
海外選手の指導

P18 [CASE3]  
大会運営・開催をサポート

P20  
[CASE4]  
ホストタウン事業の推進

話 II 久木留毅さん（専修大学教授／日本スポーツ振興センターハイパフォーマンス戦略部部長／国立スポーツ科学センターセンター長）

1964年の東京オリンピックが開催された翌年、青年海外協力隊事業が発足。初代から途切れることなく体育・スポーツ隊員が派遣され、その数は累計4467人、現在も227人が現地で活動をしている。それから55年の時を経て、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される。スポーツを通じた国際貢献活動は、どのように花開いたのか。協力隊員が未来に渡すことができるバトンは何か。東京2020に多様な側面からかかわる協力隊員たちの活動から、協力隊の可能性を探ります。

※2019年10月31日現在。

協力隊は東京オリンピックの翌年、1965年に発足し、初代からスポーツ隊員を派遣してきました。私が協力隊に参加したシリア・アラブ共和国に派遣された1993年にも「スポーツで開発途上国に何ができるだろうか」という考え方はありましたが、ムーブメントにはなっていませんでした。それが27年経ち、スポーツの基本理念が協力隊の考えに追いついてきました。協力隊事業は先見の明があって、時代に先駆けて私たちは活動してきたと感じます。実際にはスポーツが途上国に果たす役割は昔も今も大きな変化はありません。しかし、社会がスポーツを通じた開発に目覚めたなかで、途上国で果たせる役割はさらに大きくなっていると感じています。その役割とは何か。私は、スポーツは社会のエコシステムになれると思っています。ある地域に生息する生き物や植物が互いに依存しながら生態を維持する関係のように、スポーツを通して教育や地域経済の発展、健康の維持など社会にさまざまな恩恵を与えることができる、スポーツにはそういった可能性があります。

自分の能力を使って現地に赴き挑戦するものです。だからこそできる限り挑戦し、一過性の支援にしないことが大事だと身を持って理解します。

ESGやSDGsの考え方に基づく、協力隊経験者は持続可能な社会づくりに必要な能力を得て帰国すると言えるでしょう。しかし、その能力を生かすシステムが機能しているとは言い難い状況です。現在、アスリートには「デュアルキャリア」という考え方があり、アスリートと人としての2つのキャリアを同時に考えていきたいと思います。これは協力隊員や東京2020にかかわって働く人にも必要だと感じています。大事なことはロールモデルを増やすことです。また、一般社会でも活躍できるアスリートや協力隊員を育成することが重要になります。私たちの世代は協力隊からの帰国後は自助努力するしかありませんでしたが、個々の力だけでは組織としての持続性は失われてしまっています。そうならないためには協力隊経験を有効活用できる仕組みを国やJICAにつくってもらいたいと思います。

協力隊経験と同じように東京2020は通過点であり、重要なのは社会に何を残せるのかです。東京2020用に新設した施設をどう活用するのか、構築されたネットワークをどう利用するのか。その課題解決に、協力隊経験で得た持続可能性へ配慮する力とネットワークを活用する力を役立ててほしいと思っています。例えば、協力隊経験のある教員が連携して、各地域の学校の授業で東京2020の参加国の話をするとか、教育機関とJICAが手を組んで新たなつながりができた国と友好関係を結ぶなど、東京2020をひとつの機会としてそれぞれがアクションを起こせるのではないのでしょうか。協力隊員の持つ可能性を活用して、東京2020のレガシーをつくる一助となり、社会課題の解決を推進する力になっていくことを期待しています。





## 2019年パラ水泳 日本代表監督

一般社団法人  
日本身体障がい者水泳連盟 理事

峰村史世さん  
(マレーシア・水泳・1997年度2次隊)



パラリンピック出場を目指す選手たちを指導するクラブチーム「峰村パラスイムスクワッド」において選手を指導する峰村さん（提供：東洋大学広報課）

日本身体障がい者水泳連盟で、パラ水泳（障害者水泳）選手の指導を行う峰村史世さん。ナショナルトレーニングセンターで東京2020パラリンピック出場を目指す選手の指導をメインに、次世代の選手の強化にも携わっている。

同連盟と共に峰村さんはこの15年、パラ水泳の強化に取り組んできたが、資金や人員の不足、認知度の低さという課題にぶつかってきた。それでも「やってみなくちゃわからない」と自分を動かしてきた根本的な部分は協力隊時代の精神と同じだと峰村さんは話す。東京2020が決定し、資金も人員も増え、年に1度しか行けなかった遠征に複数回行けるようになるなど改善された面もあるが、その目的は変わらない。メダル獲得という結果を出すとともに「人として魅力のあるアスリートを育成する

る」ということ。それは、加速したパラ水泳へのサポートが後戻りしないようにするためでもある。

「そのために、選手が持つ能力すべてを本番で出せるように、やるべきことをすべてやったと思えるような指導をしていきたい」

パラ水泳は、脚や腕の欠損などの障害別ではなく同程度の身体能力を持った選手が同じクラスで泳ぎ、義足や義手などの道具を一切使わず自分の持っている体の能力をすべて引き出すというのが特徴だ。「最後まで予想がつかない競技を楽しんでほしい」と峰村さん。代表選手の決定は2020年3月。

みねむら・ふみよ ●群馬県出身、大学を卒業後、協力隊に参加。マレーシアで障害者水泳を指導。2004年アテネパラリンピックマレーシア代表コーチ。パラリンピック水泳日本代表ヘッドコーチとして、北京、ロンドン大会代表監督としてリオ大会へ帯同。

## 東京2020オリンピック卓球 映像・分析サポート

公益財団法人日本卓球協会 専任コーチングディレクター  
(味の素ナショナルトレーニングセンター担当)  
スポーツ医・科学委員会委員

山田耕司さん  
(ベトナム・卓球・1999年度2次隊)



NTCにてゲーム分析作業をしている山田さん

日本の卓球の全体を統括する日本卓球協会で、常者の国際競技力向上を目指す事業に携わる山田耕司さん。男女ともに金メダル獲得を悲願とする同協会にて、ナショナルトレーニングセンター（NTC）で2つの役割を担当中だ。

「ひとつは卓球の小学生からトップまでの各ナショナルチームがこの施設を合宿などで円滑に利用できるためのマネジメント（施設管理）。もうひとつは、他の映像・情報スタッフとともに、選手やコーチに対する映像サポート、分析サポートです」

大会期間中も現在の業務を継続し、日本代表チームのNTC利用のマネジメント、映像・分析のサポートにあたる予定だ。「仕事や日常生活において、協力隊時代に感じた『自分の当たり前は、世の中全体の当たり前ではない』という感覚は、私の考え方に

に無意識に影響していると思う」と山田さん。

競技現場に身を置く人間としてこだわるのはやはり自身の競技の結果。卓球は注目度も高く、プレッシャーでもあるが、楽しみでもあるという。

「2012年のロンドンオリンピックの際、現地ボランティアスタッフのおかげで、心地よい気持ちになる場面を幾度となく経験しました。日本の『おもてなし』がどのようなものになるか、外国の方はそれをどのように感じるかが注目のひとつになると思います」

※分析サポートスタッフとして山田さんも参加した。

## U-17/18 女子バレーボール代表監督

公益財団法人日本バレーボール協会  
味の素ナショナルトレーニングセンター専任コーチングディレクター  
U17/18女子代表監督

三枝大地さん  
(チリ・バレーボール・2004年度3次隊)



エジプトで開催された第16回女子U18世界選手権大会©JVA

「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならぬ」。この言葉を常に軸に置き活動するのは、U17/18女子日本代表の監督を務める三枝大地さんだ。三枝さんは監督以外にも、ナショナルトレーニングセンター利用代表チームの合宿調整や選手の発掘育成、指導者育成にかかわっている。U17/18は、将来のトップカテゴリで日本代表選手として活躍するために、経験と学び、多くの成功体験を得るためのチーム。年に5、6回、5日間程度の合宿をし、少しずつ人数を絞りながら強化、選考を繰り返してチームをつくり、アジア選手権もしくは世界選手権に向かう。大会は主に海外で開催されるが、「協力隊経験があるため、世界中どこへ行っても落ち着いて準備、対応ができる」と三枝さん。

これまで共に活動してきた多くの選手たちが日本代表選手になった。東京2020について三枝さんは「十数年をかけて選手を発掘、育成、強化し、結果を出す場である」と話す。成績に加え、選手たちの発言や行動が、人を惹きつけるものであれば、バレーボールの価値を高めることにもつながっていくと考え、選手の育成に取り組んでいる。

「世界において、日本は身長が低いと言われる国。だからこそ東京2020ではバレーボール界の歴史を変える発信ができると思っています。ぜひバレーボールを楽しむにしてみたいと思います」

※U17/18・U-17アジア選手権の時に17歳以下、U-17アジア選手権翌年に開催されるU-18世界選手権の時に18歳以下という年齢のカテゴリの日本代表チームの選手。

# CASE 1: 日本人選手の指導

東京2020に出場予定の日本人選手の  
指導・サポートや未来のオリンピック・パラリンピアン  
を育成する協力隊OB・OGたちを紹介します。

## 競技力だけでなく人間力のある選手を育成する



マレーシア代表コーチ時代に指導していた選手と峰村さん（右から2人目）

三枝さん

山田さん



## 東京2020パラリンピックに出場が決定したメキシコの卓球選手を指導

メキシコ障害者スポーツ強化施設卓球コーチ

伊藤有信さん

(SV／メキシコ・卓球・2016年度4次隊)



卓球男子代表選手のヴィクトルさん(右)と練習する伊藤さん(左)。他に女子卓球代表選手のクラウディアさん、シガラさんが東京パラリンピックに出場する

メキシコの大学における卓球の普及活動をメインに、障害のある人たちへの卓球指導も行った伊藤有信さん。週に1度、首都にある障害者スポーツ強化施設（CONADE）で選手のサポートをしてきた。CONADEで練習してきた5人が2019年パンアメリカン大会に参加し、3人が優勝。東京2020パラリンピックへの出場権を勝ち取った。「日々の練習での選手たちとの合言葉は『東京で会おう！』。優勝したときには、選手と抱き合って喜びを分かち合いました」

選手たちはそれぞれ障害の度合いも違い、個人個人抱える悩みも違う。家庭、お金、これから先の人生のこと。悩みながらも、「パラリンピック出場」「出場を家族とともに喜びたい」という目標を持って、日々練習に励んでいた。練習で共に汗を流すなか

## 「東京で会おう！」を合言葉に選手と共に汗を流す

で、選手たちが困難を抱えながらも目標を持ち、努力する姿を目にし、伊藤さんは「役立ちたい」と心から思ったそう。技術を伝えるだけでなく、悩みに耳を傾け、心に寄り添い、練習に集中できる環境をつくることで選手を支えた。一方で、夢や目標を持ち続けることの大切さを選手から学んだという。「私自身がメキシコでいたかった親切ややさへの恩返しのためにも東京2020で選手の応援やサポートをしたいと思っています。3人の選手と一緒に練習した時間は私の宝物です」

いとう・ゆうしん ● 1953年生まれ、青森県出身。2013年まで38年間、青森県の教員として勤務。03年からは校長として国際理解教育にも注力する。16年4月、SVとしてメキシコのコテイトラン工科大学に派遣され、卓球競技の周知、浸透のための活動に携わる。19年10月に帰国。

## 東京2020オリンピックケニア女子バレーボール代表チームを指導

ケニア・バレーボール連盟にて女子代表チームの指導

片桐翔太さん

(ケニア・バレーボール・2018年度4次隊)



ワールドカップバレー2019にて、ケニアバレーボール女子代表チームとコーチ、片桐さん

ケニア国内のバレーボールの発展のために組織されているケニア・バレーボール連盟で、片桐翔太さんは女子代表チームの指導をしている。「東京2020オリンピック出場権の獲得、今の目標はこれに尽きる。目の前の選手の強化に取り組んでいます」と片桐さん。

これまでチーム強化のためにオールアフリカゲームズやワールドカップに帯同しており、今後行われるオリンピックのアフリカ予選へも帯同予定だ。選手やコーチ、バレーボール連盟もアフリカ予選で宿敵メルーンを撃破し、オリンピック出場権獲得を目指している。

「コーチによっては出身地や出身クラブチームが指導に絡んでくることもあります。ある意味私は外部から来た中立な立場でもあるので、フェアな視

## 3大会ぶりのオリンピック出場を目指す

点で指導することができます。協力隊だからこそチームの緩衝材の役割にもなるかもしれないと感じています」

バレーボールにおいて日本とケニアの関係の歴史は古く、これまで多くの日本人がケニアのバレーボール発展にかかわってきた。

「その人たちが誇れるようなチームをつくり東京2020オリンピックという大きな舞台でその姿を見せたいと思っています」

アフリカ予選は、2020年1月に開催予定だ。

かたぎり・しょうた ● 1987年生まれ、山形県出身。2010年、山梨大学教育人間科学部理科教育専修を卒業後、協力隊に参加。ウガンダ・小学校教諭。12年8月に帰国。非鉄金属商社で営業を担当し、17年10月に米国に移住。私立学校などでバレーボールのコーチを務める。19年4月、2回目の協力隊に参加。

## 東京2020パラリンピックザンビア代表の陸上競技選手をサポート

ザンビアナショナルパラリンピック陸上チーム(短距離・中距離)をサポート

野崎雅貴さん

(ザンビア・体育・2017年度2次隊)



ザンビアで準備体操を教える野崎さん

2013年に体育が新たに教科へ加えられたザンビアで、中等学校の体育教員として系統立った授業の実施や、現地教員のサポート、教育実習生への指導などを行った野崎雅貴さん。学校での活動に加え、月に1度、同国のナショナルパラリンピック陸上チームのトレーニングをサポートした。「指導経験はなかった」というが、日本の指導法や陸上競技に必要な筋肉を鍛えるトレーニングなどを紹介し、選手をサポートした。

現在、モニカ・ムンガ選手の東京パラリンピック出場が決まっており、「東京大会では金メダルを獲得し、同じ障害を持つ人々を勇気づけたい」と意気込んでいるそう。他の選手たちもモニカ選手に続いて出場が決まるようトレーニング中で、「日本で活躍する姿を見ることが楽しみ」と野崎さん。

## 現地の人と一緒に恐れず何事にもチャレンジ

現場にいたからこそ課題も感じた。ザンビアでは同じ陸上チームでも、オリンピックとパラリンピックチームでは、待遇や予算の差があると思える現状を目の当たりにした。予算の都合で、選手の交通費が払えず、週に2〜3回しかトレーニングが行えない。国全体で障害に対する理解が薄く、教育現場などから変えていくことが必要だと感じたという。「オリンピックだけでなくパラリンピックが多くの人々の心を動かし、障害者や障害者スポーツへの関心も高まることを期待しています」

のぞき・まどか ● 1995年生まれ、千葉県出身。2017年、日本体育大学体育学部を卒業後、同年9月に協力隊に参加。ザンビアの地方都市の中等学校にて保健体育の授業を担当した。19年9月、帰国。その後、公益社団法人青年海外協力協会に就職し、JICA地球ひろばにて地球案内人を務めている。



活動中に東京2020出場予定の選手の指導をした協力隊員や、現在も指導中の協力隊員を紹介します。

モニカ選手(右)と野崎さん(左)

片桐さん(右)とコーチ(左)

日本文化紹介をする伊藤さん



## パラリンピックの参加国を過去最多に！

日本体育大学  
戦略的二国間スポーツ国際貢献事業  
特別研究員

兼本智仁さん（ウガンダ・体育・2014年度3次隊）



ソロモン諸島のコーチ・選手とのミーティングを行う兼本さん

パラリンピックの最多参加国・地域数は、ロンドン大会の164カ国。「それを超える参加国・地域数を目指す」ともに、東京2020をきっかけに支援対象国・地域における障害者スポーツの認知の向上、また共生社会の実現を目標に事業を展開しています」と話すのは、事業実施を担う日本体育大学の特別研究員、兼本智仁さん。支援対象国に対して「選手・コーチの育成」と「国内パラリンピック委員会の運営力強化」をサポートしている。

「2020年の先を見据えた支援でなければ、事業の目的は達成できない。コーチの育成は特に重要で、コーチの元で選手が育ち、選手の活躍が社会に良い影響を与え、選手がいずれコーチとなる。先進国に頼らず自分たちで継続的に発展できる仕組みづくりをしています」と兼本さん。これまでにコ

## 自分たちで発展できる仕組みづくりを

チや選手に向けたワークショップの開催や情報発信を行っており、東京2020開催前は事前合宿を、閉幕後にはフォローアップ研修を行う予定だ。

兼本さん自身、初めて周知で障害者スポーツを見たとき、そのパフォーマンスの高さに圧倒された。だからこそ「ぜひパラリンピックを観戦してほしい」と願う。また、協力隊OB・OGのネットワークを使ったパラリンピックの盛り上げにも期待する。

「派遣国の選手の活躍をSNSで共有して応援するのも楽しみ方のひとつ。パラリンピックや障害者スポーツを一緒に広めていけると嬉しいです」

※「戦略的二国間スポーツ国際貢献事業～パラリンピック参加国・地域拡大支援～」

## クリーンでフェアなスポーツと社会を目指すための教育活動

公益財団法人  
日本アンチ・ドーピング機構  
教育・国際部SFTグループ

岸 卓巨さん（ケニア・青少年活動・2011年度2次隊）



「アジア・オセアニア国際アンチ・ドーピングセミナー」にて日本人オリンピック（JADAアスリート委員）とともにJADAの取り組みを紹介する岸さん（左から2人目）

アンチ・ドーピング活動を通してクリーンでフェアなスポーツと社会を目指す日本アンチ・ドーピング機構（JADA）。JADAでは東京2020の参加国、特にアンチ・ドーピングへの理解が不足している開発途上国のアスリートやコーチを中心に教育・啓発活動を実施しており、それらを担当するのが岸卓巨さんだ。

国内外で開催される競技大会などで教育・啓発活動を行っており、これまでの実施国は100カ国以上。日本で開催される国際大会が増えた現在、会場で選手や来場者への啓発活動も担当している。

「国際協力・交流の現場でもスポーツのチカラ／価値について考え、スポーツをツールとして活用してほしい」と岸さん。スポーツ団体との連携が多いが、外務省やJICA、NGOなど国際協力に取り組む

## それぞれの心にある「スポーツの価値」を守る

団体とも積極的に協働しているそう。また、東京2020に向けた全員参加型の企画「PLAY TRUEリレー」にも携わっている。

「現在、世界中から『スポーツのチカラ／価値』についてのメッセージを集めています。協力隊OB・OGにもぜひご参加いただけたらうれしいです」

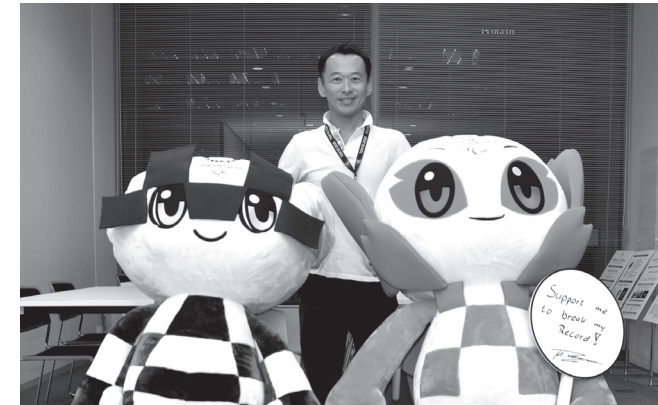
国や地域を超えて集められた「スポーツの価値」は、東京2020期間中に展示され東京2020のレガシーのひとつとなる。

※Tokyo 2020に向けて「みんなでスポーツの未来を創る」レガシープロジェクト。  
▶<https://www.playtrue2020-sp4t.jp/jp/iplaytrue/>

## 東京2020組織委員会で言語サービス部門に従事

公益財団法人  
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
国際局国際渉外部言語サービス課  
言語ボランティア担当課長

原 浩治さん（ブルガリア・体育・1994年度1次隊）



東京2020のマスコット、ミライトワ（左）、ソメイティ（右）と原さん

大会の準備・運営に関する事業を担う東京2020組織委員会では、約20人の協力隊経験者がそれぞれの専門性を生かして働いている。そのひとりが、原浩治さんだ。

「大会の公用語はフランス語と英語。主に使用される言語は英語ですが、英語が不得意な選手もいます。選手と記者の会話が円滑に行われるように選手の使用言語を使ってサポートする『言語ボランティア』のほか、通訳・翻訳による言語サービスを提供する体制を整えることが私の仕事です」

現在は、複数のテストイベントに参加して本大会に向けた準備を進め、来年4月からは役割別の研修を実施。大会期間中は所属課の本部で、言語ボランティアの責任者として指揮を執る予定だ。

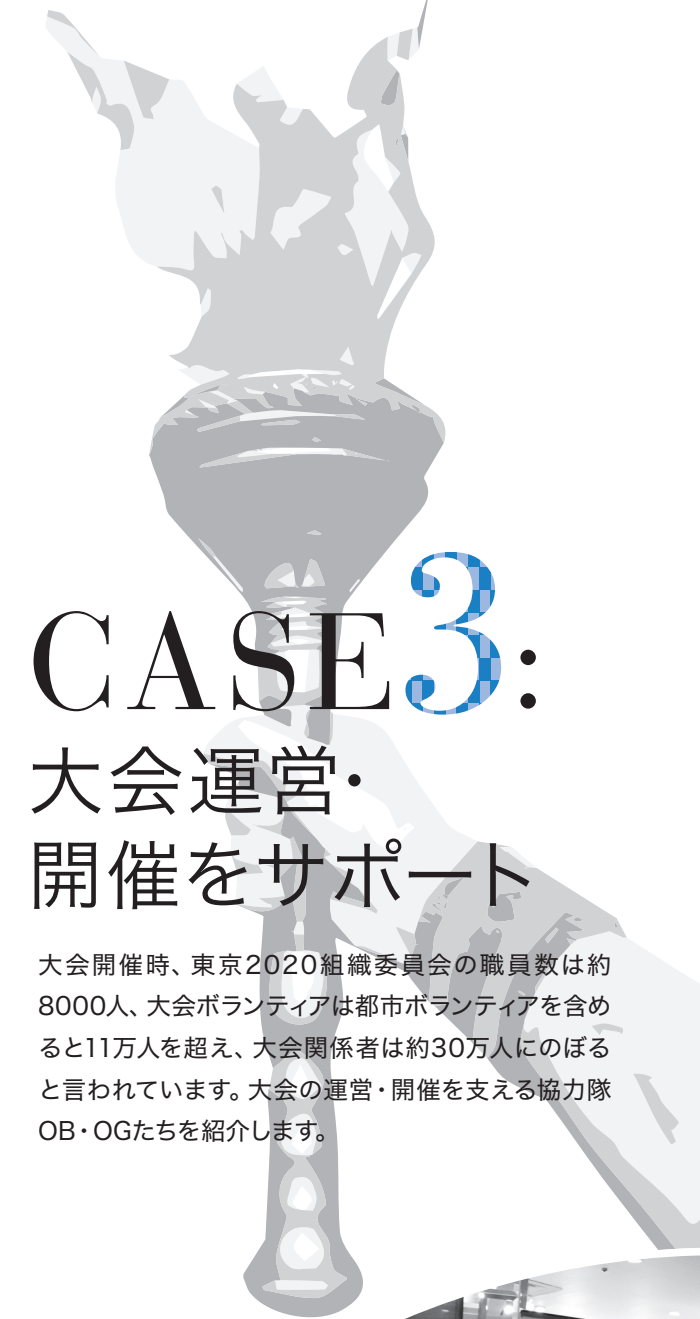
「東京2020で『スポーツの力』を感じてほしい」

## 「スポーツの力」を次の世代につないでいく

と原さんは言う。競技中は生まれた国や地域が異なるライバルでも、競技が終われば、同じゴールを目指す同志。自らを律して、練習に勤しみ、より高いところで競い合う。互いを尊重したその磨き合いを見て、多くの人が感動を覚える。協力隊任期満了後、言語力と異文化理解力を生かして長野オリンピックにボランティアとして参加し、スポーツの力を肌で感じたからこそ現在の原さんがいる。

「未来につながるその力を体験してもらえよう、東京2020をサポートしていきたいと思っています」

※テストイベント…オリンピック・パラリンピックの本大会の成功に向けて、競技運営及び大会運営の能力を高めることを目的として実施するもの。



大会開催時、東京2020組織委員会の職員数は約8000人、大会ボランティアは都市ボランティアを含めると11万人を超え、大会関係者は約30万人にのぼると言われています。大会の運営・開催を支える協力隊OB・OGたちを紹介します。



原さん(右)とブルガリア選手団長のルミャーナさん(左)

Pacific Games (サモア)で、ロールモデルアスリートたちと岸さん(中列右端)

バスケットボールパラリンピック委員会会長(中央)、兼本さん(左)、同僚の森心さん(スリランカ・ラグビー・2016年度1次隊、右)



## コストリカのホストタウン 長野県松川町

長野県松川町教育委員会生涯学習課 地域おこし協力隊  
東京2020オリ・パラ ホストタウン推進員

白井瑞穂さん

(コストリカ・日本語教育・2014年度3次隊)



2019世界柔道選手権に出場するコストリカ選手4人へ町民からの応援旗を届けた

東京2020大会に向け、長野県松川町において、コストリカとのホストタウン業務を担当する白井瑞穂さん。町民への周知・理解促進のための出前講座や広報、コストリカとの交流イベントの企画・運営などを行っている。今後は、コストリカに「ホストタウン松川町」をアピールし、互いに異文化交流や学びの機会とすることを目指している。

大会開催中は、出場を終えたコストリカ選手を迎え、町民との交流の場を設ける予定で、そのための企画・調整・運営業務を行う。また、町民応援団を結成し、大会会場での応援も検討中だ。

現在の仕事は同町では前例がなく、自分で考え行動することが多いが、協力隊で培った「とりあえずやってみる精神」が生かされているそうだ。また、コストリカの現役隊員やOB・OG隊員、現地で

世話になった方々の協力も得て活動しており、このネットワークの広さは協力隊ならではの感覚だ。一般の人をはじめ協力隊OB・OGにもホストタウンを通じて東京2020参加国との新たな関係性や可能性を感じてほしいと白井さんはいう。

「ホストタウンは、日本の地域と世界がつながる絶好の機会。海外選手にとって、異国の地（日本）で応援してくれる人がいることは心強いこと。身近にホストタウンがあれば、イベントに参加していただき、一緒に盛り上げてくれるとうれしいです」

しら・みずほ ● 1991年生まれ、徳島県出身。2014年、福岡大学人間発達文化学類を卒業後、15年1月に協力隊に参加。国立大学にて日本語コースを担当するほか、日本祭りや井田大会、日本語能力検定、セミナーの実施等に携わる。任期を7カ月延長し、17年8月帰国。同年11月より現職。

※松川町のホストタウン事業の詳細は以下のウェブサイトをご覧ください  
▶<https://www.town.matsukawa.lg.jp/choseijohou/hosutotaunzyouhou/index.html>

## ベリーズのホストタウン 千葉県横芝光町

千葉県横芝光町  
企画空港課 企画政策班

村田浩子さん

(ベリーズ・青少年活動・2006年度3次隊)



横芝駅前情報交流館「ヨリドコロ」で演奏をするベリーズのパンテンプタース・スチール・オーケストラ。右端が北村さん

「ベリーズのためにできることがあるのなら」と転職し、ベリーズのホストタウン、千葉県横芝光町の職員となった村田浩子さん。ベリーズの理解促進事業の実施・運営などを担当しており、2019年11月にはベリーズからオーケストラを招いて、同町で演奏会と小中学校での交流会を実施した。

「オーケストラに元隊員の北村絢子さん（ベリーズ・音楽・2006年度1次隊）がいたことで、日本の子どもたちに人気のNHKオリンピック・パリンピック応援ソング『パプリカ』をアレンジした楽曲を演奏してもらったことができました」

「パプリカ」が流れると子どもたちが踊り出し、演奏会は大盛り上がり。演奏会後にはオーケストラメンバーと共にベリーズ選手団を応援するボランティアを募集しながら町民と交流。実質3日間の

滞在だったが「ベリーズ人の明るい人柄に惹きつけられた」と町民から伝えられた。今後は事前キャンプの調整やアットによる交流事業を実施予定だ。

ホストタウン業務に携わって感じるのは、ホストタウンになったものの、相手国と交流の方法を考えあぐねっている自治体が多いことだ。特に知名度の低い国は、関係者を見つけることが難しい。

「そんなときこそ隊員OB・OGの出番です。ぜひ積極的にホストタウンと連携してほしいと思います。ホストタウンの情報を提供するSNSを立ち上げたのでご参加ください」

むらた・ひろこ ● 千葉県出身。短大を卒業後、民間企業に就職。2007年、協力隊に参加。ベリーズで青少年育成を目的とした起業家支援を行う。09年に帰国後、尾鷲商工会議所、尾鷲物産株式会社を経て、19年3月より現職。

※青年海外協力隊とホストタウンをつなぐFacebook「世界の応援団」  
▶<https://www.facebook.com/groups/410203576313563/>

## パラオのホストタウン 茨城県常陸大宮市

茨城県常陸大宮市  
政策審議室 企画政策課 東京オリパラ推進室

本多美月さん

(パラオ・陸上競技・2017年度1次隊)



2019年いきいき茨城ゆめ国体の会場で常陸大宮市のホストタウンとしてパラオの紹介をする、パラオ人研修生と本多さん(左端)

パラオで、陸上競技のナショナルチームのコーチとして活動した本多美月さん。派遣中の事前キャンプでパラオのホストタウンである茨城県常陸大宮市を訪れたことが契機となり、協力隊の任期満了後の9月、同市の職員となった。現在は、パラオと同市をつなぐために、事前キャンプの受け入れ準備や、学校との交流活動に携わっている。

「次の事前キャンプの受け入れは、来年5月の予定。日本滞在中のプランはパラオのオリンピック委員会と連絡を取り合っており、日本側で進めていきます。練習施設や宿泊施設の決定に加え、日本の陸上連盟などへの協力依頼をしています」

パラオの関係者と面識があるのは大きな利点だが、業務はパラオ人のペースで進む。確認のため何度も電話をし、突然の計画変更にも対応できるのは

「パラオにいたから」と感じている。

東京2020後もパラオと同市の交流が続くようにするため、来年の2月にはパラオに派遣中の小学校教育隊員と協力し、両国の小学生がテレビ電話で交流する予定で、3月末には同市内で「パラオフェア」も開催。さらに、パラオに向け常陸大宮市を紹介するSNSの準備もしている。

「パラオではFacebookが大流行しているので、特設ページをつくる予定です。パラオ事情に詳しい私がこの市のために何ができるのかを考え、役立てるよう仕事をしていきたいと思っています」

ほんだ・みづき ● 1993年生まれ、愛知県出身。大学を卒業後、教員を経て、2017年7月に協力隊に参加。パラオの陸上競技協会や陸上競技の普及や、ナショナルチームの指導に携わる。2019年7月に帰国し、9月より現職。

※常陸大宮市の東京2020情報は以下のウェブサイトをご覧ください  
▶<http://www.city.hitachinomiya.lg.jp/page/page003763.html>

# CASE 4: ホストタウン事業 の推進

日本の自治体と東京2020の参加国・地域の住民などが、スポーツ・文化・経済などを通じて交流し、地域の活性・共生社会の実現に取り組むホストタウン。派遣国のホストタウンを日本の自治体で支える協力隊OB・OGたちを紹介します。

## 東京2020の先も交流が続く事業を展開



白井さん(右)が企画したコストリカ祭り



西日本国際財団  
アジア貢献賞創設20周年記念特別賞

受賞の言葉

鹿児島県青少年国際協力体験事業は、国際性豊かな青少年の育成や県民の「内なる国際化」などを目的に始めたボランティア活動であり、着想の原点は協力隊員として複合民族国家のマレーシアで暮らした経験にあります。開始以来、実行委員会は県の協力隊OBOG会や国際交流協会などが母体となっています。一方、カンボジアで続けてきた教育などの支援も県内の協力隊経験者たちがかかわっており、実施主体は彼らと県の教育関係者などで構成する「いっしょき学校を作りもて会」。今後は、協力隊経験者が県民と進めてきたこれらの活動を継続する一方、外国人に「住んで良かった」と思ってもらえる地域をつくる活動にも取り組んでいきたいと考えています。

アジア諸国などとの国際交流を推進することにより、国際相互理解の促進と国際的人材の育成を図ることを目的とした事業を行う公益財団法人西日本国際財団。毎年1回、「西日本国際財団アジア貢献賞」によりアジアの発展やアジアとの国際交流に貢献する九州・沖縄・山口地域の団体・個人を顕彰しているが、2018年度は賞の創設20周年を記念して特別賞「アジア貢献賞創設20周年記念特別賞」を設け、協力隊経験者の弓場秋信さんに授与した。

えた後、地元・鹿児島で貿易業を営むかたわら、1991年には県内の中・高校生に東南アジア諸国の協力隊員の活動現場を訪ねてもらった「鹿児島県青少年国際協力体験事業」をスタート。実行委員会の委員長として、これまで27回の派遣を実現してきた。派遣された中・高校生は約400人、派遣先は7カ国、約60カ所にのぼる。カンボジアでの教育や生活向上の支援も23年にわたり継続しており、今回の受賞は弓場さんが取り組んできたそうした国際交流・国際協力の活動全般を顕彰するものだ。



第27回となる昨年の鹿児島県青少年国際協力体験事業で、スリランカの協力隊員の活動現場を訪ねた中・高校生や弓場さん（前列左端）と現地の人々



弓場秋信さん

- ▶マレーシア
- ▶溶接
- ▶1972年度2次隊

鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会 委員長

ゆみば・あきのぶ ●1948年生まれ、鹿児島県出身。協力隊に参加した後、地元・鹿児島で貿易会社の弓場貿易（株）を設立し、代表取締役就任。同県の協力隊OBOG会の会長、「鹿児島県青年海外協力隊を支援する会」の事務局長などとして、国際交流・国際協力、協力隊事業などに関するボランティア活動にも取り組んできた。



## 国際交流部門

国際交流活動を顕彰する賞を受賞した  
JICA海外協力隊OB・OGをご紹介します。

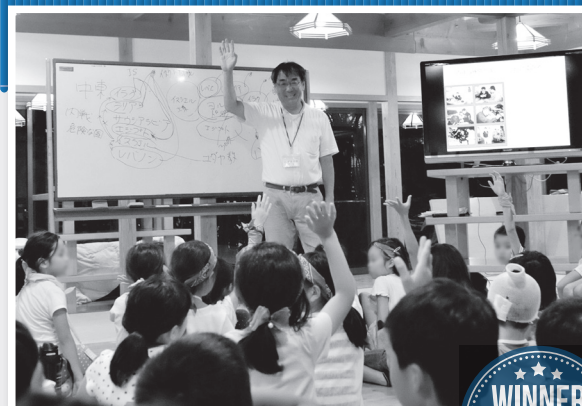
受賞の言葉

協力隊員として派遣されたヨルダンでは、火力発電所で技術指導を行うかたわら、パレスチナ難民キャンプを回って人形劇などにより子どもたちの心のケアに取り組みました。そのなかで、紛争の最大の犠牲者は子どもたちであることを目の当たりにしたのが、能古島青少年育成協会を立ち上げ、青少年育成に取り組み始めた原点です。世界でテロや紛争が頻発するなか、日本人は途上国から目を逸らし、「内向き」になりがちです。私が目指してきたのは、小・中学生が10年、20年後に途上国や難民の問題から目を逸らさず、支援活動に参画できるようになるきっかけづくりです。「納得から共感へ、共感から感動へ」の思いを、今後も実践に移していきたいと考えています。

### 第20回西日本国際財団アジアKids大賞

アジア諸国などとの国際交流を推進することにより、国際相互理解の促進と国際的人材の育成を図ることを目的とした事業を行う公益財団法人西日本国際財団。毎年1回、九州・沖縄・山口地域におけるアジア諸国との国際交流事業を通じ、国際相互理解と国際友好親善の促進に貢献する小・中学校や団体を「西日本国際財団アジアKids大賞」により顕彰しているが、第14回となる2018年度は、協力隊経験者の伊高哲郎さんが主宰する「能古島青少年育成協会」(以下、「協会」)が受賞した。

伊高さんは協力隊に参加した後、神奈川県で自動車メーカーの技術者として働いた後、人口約700人の福岡県・能古島に移住。2010年に「協会」を立ち上げ、島の自然を生かした自然教室などの事業を開始した。自然教室では毎回、国際協力関係者などに講師を依頼する「国際協力のお話」を組み込むほか、島の中学生と中華人民共和国の子どもが野球で交流するプログラムや、国際交流のイベントなどを実施。今回の受賞は、国際人を育成する伊高さんの活動全般を顕彰するものだ。



小・中学生を対象とした自然教室に毎回組み入れている1時間の「国際協力のお話」で、世界の現状を伝える講習を行う伊高さん



伊高哲郎さん

- ▶ヨルダン
- ▶工作機械
- ▶1992年度3次隊

能古島青少年育成協会 代表

いたか・てつろう ●1962年生まれ、福岡県出身。協力隊に参加した後、自動車メーカー勤務を経て、2009年に福岡県の離島・能古島（このしま）に移住。翌年、小・中学生の健全育成と国際人の育成を目的に自然教室や国際交流事業に取り組む「能古島青少年育成協会」を設立。厚生労働省が認定する「ものづくりマイスター」の資格を持つ。



帰国後の仕事や  
ボランティア活動が評価され、  
顕彰されたJICA海外協力隊OB・OGの  
一部をご紹介します。



### 国際交流部門...P.22

【西日本国際財団  
アジア貢献賞創設20周年記念特別賞】

弓場秋信さん  
(マレーシア・溶接・1972年度2次隊)

【西日本国際財団アジアKids大賞】

伊高哲郎さん  
(ヨルダン・工作機械・1992年度3次隊)



### ベンチャー起業家部門...P.24

【Japan Venture Awards 2019】

中西敦士さん  
(フィリピン・村落開発普及員・2010年度4次隊)

【グロービス アルムナイアワード】

町井恵理さん  
(ニジェール・感染症対策・2006年度派遣)

【HONGO AI AWARD】

徳島泰さん  
(フィリピン・デザイン・2012年度1次隊)



### JICA理事長表彰...P.26

【個人受賞】

金森秀行さん  
(マラウイ・農業土木・1978年度1次隊)

藤掛洋子さん  
(パラグアイ・家政・1992年度2次隊)

【団体受賞】

NPO法人 自然塾寺子屋



## 受賞の言葉

協力隊時代、右も左もわからないなか、さまざまな人に助けられながら、マニラ麻農家の収入向上支援として「ジーンズ」の商品化を実現することができました。その活動では、日本の商社に資金援助していただくこともできました。そうした経験が、後に「ものづくり」や「ビジネス」に携わる原点となっています。今後は、既存の製品の改良を続ける一方、「排尿」だけでなく「排便」のリズムも整えられる機器、あるいは膀胱や大腸以外の臓器の変化が数値化できる機器などの開発も進め、特に家庭の中のヘルケアサービスの質向上に貢献していきたいと考えています。

## 受賞の言葉

今回の受賞は私だけのものではなく、AfriMedicoのメンバーたちの頑張りの結晶にほかなりません。私はこれまで、「自分が見たこと、経験したこと、学んだことに責任を持つ」ということを心に、人生を歩んできました。「見たこと、経験したこと」の中で影響が大きいのは協力隊時代の経験です。医薬品の供給に課題があったニジェールの状況を自分の目で見て心が動いたことが、AfriMedicoの活動の原点です。今後は、置き薬が自らの健康をケアするツールとしてセルフメディケーションにつながっているかという「エビデンス」の検証に力を入れながら、よりインパクトの強い事業を進めていきたいと考えています。

## 受賞の言葉

デザイン隊員として3Dプリンターを扱う活動に携わっていた協力隊時代に、現地の人からよく「3Dプリンターで義足をつくることはできないのか?」と聞かれたことが、インスタリムの仕事を着想したきっかけです。起業から2年経ち、3D技術を使ってひとりひとりに合ったソケット(脚の切断部分を収納する部品)を設計する技術を開発できたことから、商品の大幅な低価格化により、途上国での販売拡大が見込めるようになりました。「すべての人が義足を手に入れられる世界の実現」という目標に向かい、さらに技術の改良を重ねていきたいと考えています。

独立行政法人中小企業基盤整備機構では、「Japan Venture Awards」により毎年1回、革新的で潜在成長力の高い事業や、社会的課題の解決に資する事業を行う、志が高いベンチャー企業の経営者を顕彰している。2018年度は、優秀で、公的支援制度などを活用し、業績良好な企業の経営者を対象とする「中小機構理事長賞」を、協力隊経験者の中西敦士さんがトリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社の代表取締役として受賞した。

同社が手がけるのは、超音波で膀胱の大きさを捉え、排尿のタイミングを事前に知らせる排泄予測デバイス「DFree」の企画・開発・販売・介護の領域における最先端の機器として、日本や米国、フランスで販売している。



左写真は、排泄予測デバイス「DFree」。右写真は、それを装着している中西さん。専用のアプリとともに使う



## Japan Venture Awards 2019 中小機構理事長賞

### 中西敦士さん

- ▶フィリピン
- ▶村落開発普及員
- ▶2010年度4次隊

トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社  
代表取締役

なかにし・あつし ●1983年生まれ、兵庫県出身。慶應義塾大学商学部卒。医療分野を含む新規事業立ち上げのコンサルティング業務に従事した後、協力隊に参加。任期終了後、米カリフォルニア大学バークレー校でビジネスを学ぶ。2015年にトリプル・ダブリュー・ジャパン(株)を設立し、代表取締役に就任。



置き薬(写真中央の箱)を届けたタンザニアの村の住民(右から2人目)とAfriMedicoのスタッフたち。前列左端が町井さん

## 第15回グロービス アルムナイアワード 創造部門

### 町井恵理さん

- ▶ニジェール
- ▶感染症対策
- ▶2006年度派遣

NPO法人AfriMedico 代表理事

まちい・えり ●1977年生まれ、大阪府出身。医薬情報担当者(MR)として製薬会社に勤務した後、協力隊に参加。帰国後、再び製薬会社でMRとして働くかわら、グロービス経営大学院でビジネスを学ぶ。2015年、アフリカにおける配置薬事業の普及に取り組むNPO法人AfriMedicoを設立し、代表理事に就任。



3Dプリンターで出力した試作の義足を手にする徳島さん

## HONGO AI AWARD 経済産業省 産業技術環境局長賞

### 徳島 泰さん

- ▶フィリピン
- ▶デザイン
- ▶2012年度1次隊

インスタリム株式会社 代表取締役CEO

とくしま・ゆたか ●1978年生まれ、京都府出身。システムエンジニアや産業デザイナーとして、コンピュータ部品のベンチャー企業や大手医療機器メーカーに勤務した後、協力隊に参加。ものづくりの支援に従事する。帰国後の2017年に合同会社インスタリムを設立。翌年に株式会社化し、代表取締役CEOに就任。



# ベンチャー起業家部門

社会課題の解決に向けた革新的な「ビジネス」を立ち上げた人などを顕彰する賞を受賞したJICA海外協力隊OB・OGをご紹介します。



## 個人受賞

### 金森秀行さん

▶マラウイ  
▶農業土木  
▶1978年度1次隊

元JICA国際協力専門員

かなもり・ひでゆき ● 1949年生まれ、兵庫県出身。大学卒業後、鹿児島県職員を経て協力隊に参加。灌漑開発計画のための地形測量や水源調査、関連施設の施工管理に携わる。米アイオワ州立大学大学院修士課程を修了後、84年からJICA国際協力専門員として灌漑分野を中心とする農業開発に従事。2015年に退職。



フィリピンにおけるJICAのプロジェクト方式技術協力「畑地灌漑技術開発計画（フェーズII）」の専門家として、現地で技術指導にあたる金森さん（中央、89年撮影）

## 個人受賞

### 藤掛洋子さん

▶パラグアイ  
▶家政  
▶1992年度2次隊

横浜国立大学 学長特任補佐兼教授

ふじかけ・ようこ ● 民間企業勤務を経て協力隊に参加。任期終了後、JICA専門家としてパラグアイ、チュニジア、ペルー他で勤務。お茶の水女子大学で博士号（学術）を取得後、東京家政学院大学／大学院准教授を経て、現職。青年海外協力隊技術顧問（「家政・生活改善」等担当）、NPO法人ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金代表理事。



マーケティング講習会で発表する農村女性たちと藤掛さん（中央）

## 団体受賞

### NPO法人 自然塾寺子屋

[理事長]  
矢島亮一さん  
▶パナマ  
▶村落開発普及員  
▶1998年度3次隊

しぜんじゅくてらこや ●  
設立：2001年  
所在地：群馬県甘楽郡甘楽町小幡7（甘楽事務所）  
事業内容：農産物の生産・加工・販売  
グリーンツーリズム・アグリツーリズム  
農村フィールドワーカーの養成、ほか



今年2月、自然塾寺子屋で研修を受講したパラグアイの日系人（右）の農場をフォローアップのために訪問した矢島さん

## 受賞の言葉

専門家としての経験を他の専門家にフィードバックするという国際協力専門員の仕事の効果は、支援した専門家たちが行う事業が評価される際に顕在化しません。今回の受賞は、それを認めていただいたと感謝しています。国際協力専門員としての仕事の基礎は、協力隊時代に築かれました。前職時と合わせて、灌漑開発事業の調査・計画から測量・設計・積算・施工に至るすべてを経験し、どの段階についても専門家として働ける技術を得ることができた一方、「現地のレベルに適した技術を選択する」という、途上国における「技術移転」の要を知ることができたからです。

金森さんは、JICA国際協力専門員として30年以上にわたり、灌漑分野を中心とする農業開発の技術移転に多大な貢献をしてきたとして今回の受賞に至った。JICA国際協力専門員として実際に携わったのは、フィリピン・ルーマニア・タンザニアにおける技術協力専門家（以下、専門家としての仕事、タイのアジア地域支援事務所における広域企画調査員としての仕事、アジアやアフリカを中心に計34カ国での技術協力に関する調査・支援活動、専門家の育成など。また、農業開発の技術協力に関して、持続性の高い技術の選択と効率的な移転を目的に集めた情報と知見を整理してJICAのアーカイブに残し、現在も若手職員などのナレッジ強化に貢献している。

## 受賞の言葉

協力隊員としてパラグアイの農村部で女性や子どもたちのために働かせていただき、農村女性たちが力をつけていく姿から私自身も多くの力と学びを得ました。大学で教鞭をとることができているのも、NGOで活動ができているのも、協力隊員として農村女性たちとともに失敗と成功の経験を積み重ねてきたからです。2016年よりJICA草の根技術協力事業にプロジェクト・マネージャーとして関わらせて頂き、パラグアイの農村女性たちと新たな夢を紡いでいます。残る期間は、加工食品のマーケティングとブランディングを行い、シングルマザーを含む農村女性たちの所得創出支援やエンパワーメントのために力を注ぎます。

個人受賞した藤掛洋子さんは、協力隊に参加した後、JICA短期技術協力専門家としてパラグアイ、チュニジア、ペルー、ホンジュラス他で国際協力事業に従事。現在は横浜国立大学学長特任補佐ならびに大学院教授の職にあり、同大が協力機関となっているJICA草の根技術協力事業（新・草の根パートナー型）「パラグアイ農村女性の生活改善プロジェクト」横濱からともに夢を紡ぐ」ではプロジェクト・マネージャーも務めている。

以上のほか、藤掛さんはNPO法人ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金の代表理事としてパラグアイにおける4つの学校の建設・支援やスラムにおける生活改善支援などを行い、国際協力活動は27年目を向かえた。現在は若者たちの育成にも力を入れている。

## 受賞の言葉

自然塾寺子屋の仕事は、協力隊の活動からすべてが始まっています。派遣前、私は農家に生まれたことに引け目のようなものを感じていましたが、協力隊員として暮らしたパナマでは、農業に誇りを持っている現地の方々とお会いすることができました。そうして私も日本の農村や農家に誇りを感じることができるようになり、その価値を発信したいとの一心で取り組んできたのが、自然塾寺子屋の活動です。日本で多文化共生社会づくりが重要になるなか、今後は外国の方々に好きになってもらえるような地域づくりの活動に、さらに力を入れていきたいと考えています。（矢島さん）

団体受賞を果たしたNPO法人自然塾寺子屋は、協力隊経験者の矢島亮一さんが帰国後、群馬県甘楽郡甘楽町で立ち上げた団体。農産物の生産・加工・販売、農業体験や自然体験のプログラム、「コミュニティカフェ「信州屋」」の運営など、「国内」の地域活性化に向けた事業を行う一方、協力隊の技術補完研修の受け入れや、JICA研修員受入事業における研修の受け入れなど「海外」の地域活性化に向けた事業にも取り組んできた。同団体のキャッチフレーズは、「農村から世界の未来を育てる」。

理事長の矢島さんや事務局長の森栄梨子さん（ホンジュラス・村落開発普及員・2010年度4次隊を含め、メンバーは協力隊経験者が中心だ）。



# JOCV's BOOKS

## 協力隊OB・OGの著書

協力隊OB・OGが執筆・監修をし、2019年に発行された本のうち、協力隊経験を紹介するものや、協力隊経験がベースとなって取り組む現在の仕事に関するものを集めました。



### 『「地域×大学生」が未来をひらく 実践！まちづくり学 ～拓殖大学編～』

監修：徳永達己（タンザニア・在庫管理・1985年度1次隊）、ほか  
発行：大空出版、2019年7月  
定価：1200円（税別）

政府による「地方創生」の取り組みがスタートして約5年。「地方」の課題はそれにより改善したのだろうか？本書は、学生たちが地域と連携してまちづくりに挑戦する事例を通じて、「地方創生」の新たなあり方を展望するもの。監修者のひとりである協力隊OBの徳永さんは、「途上国における開発の経験が、日本の地方創生でも生かせる」という考えのもと、教え子である拓殖大学の学生たちとともにまちづくりに取り組んでおり、その詳細も紹介されている。

とくなが・たつみ ●拓殖大学国際学部教授。協力隊に参加した後、(社)国際建設技術協会や(株)エイト日本技術開発で研究員や開発コンサルタントとして途上国におけるインフラ開発に従事。2015年より現職。「地方創生」や「学生参加型のまちづくり活動」に関する研究・実践を進めている。



### 『地球の仲間たち ～スリランカ/ニジェール～』

編者：開発教育を考える会  
〈代表・臼井香里(エルサルバドル・美術・1974年度4次隊)〉  
発行：ひだまり舎、2019年8月  
定価：1800円（税別）

写真からその背景を考察する「フォトランゲージ」教材。これまで本会が写真セットやCDの形で出してきた『地球の仲間たち』を絵本の形で刊行。スリランカとニジェールを舞台に、子どもの生活を楽しく追体験できる。本文中のQRコードから主人公が使う母語を聞くことができ、出版社公式サイトワークシートを使うと、読者も絵本の中に入り込める仕掛けがあり、子どもも大人も一緒に楽しめる絵本となっている。

かいはつきょういくをかんがえるかい ●開発教育/国際理解教育を推進する任意団体。現代表の臼井さんが協力隊に参加した後、協力隊OB・OGとともに1983年に設立。教材の作成、各種イベントへの参加、講師派遣などに取り組んでいる。著書に、開発教育/国際理解教育のための教材『地球の仲間たち』シリーズがある。



### 『ママとミシンとスワヒリ語 ～私のタンザニア物語～』

著者：宇野みどり  
〈タンザニア・婦人子供服・1966年度2次隊〉  
発行：第三文明社、2019年11月  
定価：1800円（税別）

初代協力隊員としてタンザニアへ渡り、目にした光景は、日本での想像をはるかに超えるものだった——。本書は、協力隊員としてだけでなく、その後もスワヒリ語の通訳者・翻訳者・指導者、あるいはスワヒリ語放送の翻訳者・アナウンサーなどとして、常にタンザニアとかかわり続けてきた著者の半生を凝縮したもの。協力隊時代のものを含むさまざまな年代の写真も掲載されており、同国の「昔と今」をつぶさに伝えてくれる一冊となっている。Kindle版あり。

うの・みどり ●スワヒリ語の通訳家・翻訳家。協力隊参加後、NHK国際放送「ラジオジャパン」スワヒリ語放送の翻訳とアナウンスに従事。外務省研修所などのスワヒリ語講師を経て、現在は大学書林国際語学アカデミーでスワヒリ語を教授。著書に『はじめはここからスワヒリ語』（第三文明社）、『簡明 スワヒリ語・日本語辞典』『簡明 日本語・スワヒリ語辞典』など。



### 『～図解早分かり！～ 今こそ知りたい「賞味期限」の新常識』

監修：井出留美（フィリピン・食品加工・1994年度1次隊）  
発行：宝島社、2019年9月  
定価：1100円（税別）

食品を買うとき、あるいは冷蔵庫から食品を取り出すときに、多くの人が気にするのが消費期限や賞味期限。それらについて正しい知識を持っていれば、まだ食べられるのに捨ててしまう「食品ロス」を減らすことができる。本書は、さまざまな食品の消費期限や賞味期限の「真実」をわかりやすく解説するもの。2019年10月1日に「食品ロスの削減の推進に関する法律(食品ロス削減推進法)」が施行され、「食品ロス」の問題が新たな時代に入った今、誰もが読んでおきたい一冊だ。

いで・るみ ●食品ロス問題ジャーナリスト。株式会社office 3.11代表取締役。博士(栄養学)、修士(農学)。協力隊に参加した後、日本ケロッグ広報室長などを経て独立。食品ロス問題を全国的に注目されるレベルまで引き上げたとして、2018年に第2回食生活ジャーナリスト大賞(「食文化」部門)とYahoo!ニュース個人「オーサーアワード2018」を受賞。著書に『賞味期限のウソ～食品ロスはなぜ生まれるのか～』(幻冬舎新書)など。



### 『「食品ロス」をなくしたら1か月5,000円の得!』

著者：井出留美（フィリピン・食品加工・1994年度1次隊）  
発行：マガジンハウス、2019年6月  
定価：1000円（税別）

本来は食べることができる食品が、「売れ残り」などにより捨てられてしまう「食品ロス」。家庭でこれを減らす工夫をすれば、実は家計の「ロス」も減らすことができる。本書は、家庭で食品ロスを減らせる「買い物」や「保存」などのワザを紹介。「余分なものを買ってしまうのを避けるため、食品の買い物は食後に行く」「長ネギは、日持ちしない緑の部分から先に使う」など、いずれもすぐに生活に取り入れることができるワザばかりだ。Kindle版あり。



### 『食と雑貨をめぐる旅 悠久の都ハノイへ』

著者：竹森美佳/旧姓・永沼（ベトナム・環境教育・2010年度2次隊）  
発行：イカロス出版、2019年7月  
定価：1500円（税別）

建築や食などにフランス統治時代の面影が残るベトナムの首都ハノイ市。協力隊時代に派遣国ベトナムに魅了され、同市に移住した著者が、旅行者向けに同市の観光スポットや雑貨店、レストランなどを紹介するのが本書。著者は現地の伝統工芸を生かした生活雑貨や服飾のブランド「ante（アンテ）」を主宰しており、伝統の織物やかごバッグなど、同国の「手仕事」について解説するページも充実。同市を旅行する日本人には必携の一冊だ。

たけもり・みか ●「手仕事」や「サスティナビリティ」をテーマに、現地の伝統工芸を生かした生活雑貨や服飾を扱うブランド「ante（アンテ）」を運営するアジア工芸社ベトナム（ハノイ市）の代表。協力隊に参加した後、同市に移住し、旧市街でカフェや雑貨店を経営。その後、アジア工芸社ベトナムを立ち上げる。



### 『エジプトダイアリー ～日常感溢れる景色の数々～』

著者：土棟亜也子（エジプト・青少年活動・2015年度4次隊）  
発行：ブックコム、2019年3月  
定価：1500円（税別）

本書は、JICAのオフィシャルブログ「JICAボランティアの世界日記」(現「JICA海外協力隊の世界日記」)への投稿記事を下敷きに、著者の協力隊時代の活動や生活を綴ったもの。街の様子や食事、交通手段など、エジプトの人々の日常が数々の写真とともに紹介されており、同国を旅している気分させてくれる。英語教育や情操教育に携わった著者の協力隊活動の描写を通じて、同国の教育現場の様子を垣間見ることできる。Kindle版あり。

つちむね・あやこ ●システムエンジニア、インターネット広告会社社員を経て、協力隊に参加。教育支援NGOに配属され、子どもたちへの英語教育や情操教育に携わる。現在はインターネット広告のシステム開発プロデューサーを務める。著書に写真集「asianari in Egypt ~ the life is full of learning pieces ~」(ブックコム)など。



派遣国別 | 派遣国が同じJICA海外協力隊経験者などで構成するOB・OG会

地域	派遣国	団体名	代表者	問い合わせ窓口
アジア	スリランカ	スリランカ同窓ネットワーク	市川真理子（コンピュータ技術・1987年度3次隊）	ichi_mariko@yahoo.co.jp（市川真理子）
	ネパール	協力隊ネパール会	田中浩平（食作物・1992年度1次隊）	nepalkai@chautara-kaze.com（田中、上坂）
	バングラデシュ	バングラデシュOVの会	佐藤利哉（農業協同組合・1981年度1次隊）	nahoko@sol.dti.ne.jp（佐藤利哉）
	フィリピン	協力隊フィリピンOB/OG会	中垣長睦（園芸作物・1970年度2次隊）	jocvph-obog-admin@googlegroups.com（上村秀之）
	ベトナム	ベトナムOV会	青木宏祐（空手道・2004年度3次隊）	kakuchari@yahoo.co.jp（青木宏祐）
	マレーシア	青年海外協力隊マレーシア会	白山 肇（理数科教師・1980年度1次隊）	malaysia@ics-together.com（志岐文子）
	モンゴル	モンゴルオボグの会	村上吉文（日本語教師・1991年度3次隊）	https://www.facebook.com/MongoLOBOG
大洋州	ラオス	青年海外協力隊ラオスOV会	關本政夫（農林統計・1996年度3次隊）	sekimoto@cam.hi-ho.ne.jp（關本政夫）
	サモア	青年海外協力隊サモアOB会	大塚一雄（コンピュータ技術・1988年度3次隊）	samoa@fafetai.net
中南米	ソロモン	JOCV・ソロモンOV会	山本真紀（公衆衛生・1994年度2次隊）	kima_honiarara@i.softbank.jp（山本真紀）
	エクアドル	エクアドルOV会	岡山倫也（環境教育・2014年度3次隊）	ecuador.exvoluntarios@gmail.com
	エルサルバドル	青年海外協力隊エル・サルバドル会	高田幸一（バスケットボール・1976年度1次隊前期）	ichi0704@jcom.home.ne.jp（高田幸一）
	エルサルバドル	エルサルバドルのバラスリートを応援する会	高田幸一（バスケットボール・1976年度1次隊前期）	miyahei@hotmail.com（宮本亮平）
	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国OV会	綿引純男（体育・1988年度2次隊）	sumiowatahiki@hotmail.com（綿引純男）
アフリカ	パナマ	青年海外協力隊パナマOV会	立花邦彦（電子機器・1993年度1次隊）	panamaov@yahoo.co.jp（吉岡初子）
	エチオピア	青年海外協力隊エチオピアOB・OG会	並木義明（電話線路・1974年度2次隊前期）	namiki.yoshiaki@mirait.co.jp（並木義明）
	ケニア	協力隊ケニアOB・OG会	倉科芳朗（理数科教師・1988年度2次隊）	info@kenya-jocv.com（川田直輝）
	タンザニア	ワスワヒリの会	蔀 佳恵（村落開発普及員・2008年度3次隊）	waswahilinkai@gmail.com
	ニジェール	ニジェール有志の会	大野岳夫（コンピュータ技術・2004年度1次隊）	takeo.ohno@nifty.ne.jp（大野岳夫）
	マダガスカル	青年海外協力隊マダガスカルOV会	佃 麻美（村落開発普及員・2009年度1次隊）	tiakomadagascar@outlook.jp
	マラウイ	日本マラウイ協会	野呂元良（元マラウイ日本国大使）	info@japan-malawi.org（側嶋康博）
中東	モザンビーク	モザンビークの会	中岡英代（理数科教師・2007年度2次隊）	mozambique.no.kai@gmail.com（中岡英代）
	ルワンダ	青年海外協力隊ルワンダOV会	松山匡延（理数科教師・2005年度3次隊）	rwandaov@yahoo.co.jp（松山匡延）
	イエメンほか	JOCVイエメント UNV（国連）ネットワーク	相場由夏（旧姓：佐藤／幼児教育・2007年度2次隊） 伊藤嘉一（UNV経験者（イエメン・1971年））	meguro-ito@t02.itscom.net（伊藤嘉一）
	シリア	シリアOV会	中村聡武（音楽・1999年度3次隊）	toshitakenakamura@hotmail.com（中村聡武）
	ヨルダン	ヨルダンネットワーク	小田賢治（編集・2000年度1次隊）	jordan-network-yakuin@googlegroups.com（小田賢治）
欧州	ブルガリア	ハイデバ ブルガリア	原 浩治（体育・1994年度1次隊）	yusukeaznable@gmail.com（岡田裕介）
	ルーマニア	ルーマニアOB会	増田美智世（旧姓：斗澤／看護師・1997年度3次隊）	jocvrom-admin@googlegroups.com

分野等別 | 派遣中・帰国後の職種・活動領域などが同じJICA海外協力隊経験者などで構成するOB・OG会

分野(大)	分野(小)	団体名	代表者	問い合わせ窓口
建築	都市計画・建築	NPO法人都市計画・建築関連OVの会	設楽知弘（株式会社毛利建築設計事務所）	evaa.jocv@gmail.com（設楽知弘）
保健・医療	リハビリテーション	JOCVリハビリテーションネットワーク	小泉裕一（モンゴル・理学療法士・2012年度1次隊）	jocvrehabnetwork@gmail.com（小泉）
	栄養士	青年海外協力隊栄養士ネットワーク	氏家真梨（ボツワナ・栄養士・2003年度1次隊）	mujiie@hagoromo.ac.jp（氏家真梨）
	看護職	JOCV看護職ネットワーク	成瀬和子（フィジー・看護師・1990年度2次隊）	jocvnurse@gmail.com
教育	幼児教育	青年海外協力隊幼児教育ネットワーク	鶴見志織（スリランカ・幼稚園教諭・1999年度2次隊）	JOCVyoukyou@aol.com
	開発教育	開発教育を考える会	臼井香里（エルサルバドル・美術・1974年度2次隊後期）	info@chikyuy-nakama.com（天野和広）
	開発教育	学校から世界のミカタを考える会	梶 広大（ミクロネシア・小学校教諭・2011年度1次隊）	info@sekaninomikata.com（梶 広大）
	理数科教育	ザンビア理数科教師会議（AMAKASA）	瀬戸洋一（ザンビア・理数科教師・1997年度1次隊）	Aoki.Hidetake@jica.go.jp（青木英剛）
	環境教育	青年海外協力隊環境教育OV会	加藤超大（ヨルダン・環境教育・2012年度1次隊）	see.jocv@hotmail.com（加藤超大）
	学校教育	全国OV教員・教育研究会	丸山一則（ホンジュラス・技術科教師・1988年度3次隊）	mwalimu@nifty.com（金田健一）
	学校教育	関東教育支援ネットワーク	金田健一（ケニア・理数科教師・2000年度2次隊）	mwalimu@nifty.com（金田健一）
	学校教育	京都府OV教員研究会	貝畑四朗（ジンバブエ・体育・2006年度3次隊ほか）	masahirak0212@yahoo.co.jp（川村昌広）
	学校教育	青年海外協力隊大阪府OB・OG教育ネットワーク	三野光雄（ウガンダ・理数科教師・2002年度1次隊）	mituwo.sanno@nifty.com（三野光雄）
スポーツ	柔道	青年海外協力隊柔道隊員OB・OG会	山崎 丈（ガーナ・理数科教師・1990年度1次隊）	m-kazu40@mvj.biglobe.ne.jp（事務局：丸山一則）
	バレー	JOCVバレーボール会	田中耕三（マレーシア・柔道・1971年度第1次隊）	si050203-8348@tbz.t-com.ne.jp（事務局長：三瓶明一）
	無線	JOCV-NETアマチュア無線クラブ	三枝大地（チリ・バレーボール・2004年度3次隊）	samuraihop@hotmail.com（中島太一）
その他	無線	JOCV-NETアマチュア無線クラブ	小山栄一（ザンビア・無線通信機・1979年度3次隊）	jk1xld@gmail.com
	地域づくり等	日本も元気にする青年海外協力隊OB会	河内 毅（グアテマラ・森林経営・2002年度1次隊）	nippon.genki.jocv@gmail.com（河内 毅）

シニア | 海外海外協力隊や日系社会海外協力隊の経験者などで構成するOB・OG会

	団体名	代表者	問い合わせ窓口
総合	NPO法人シニアボランティア経験を活かす会	鈴木 新（SV／メキシコ・品質管理・生産管理・2012年度1次隊）	info@jicasvob.com（鈴木 新）
在住地等別	札幌SVくらぶ	佐々木義昭（SV／エチオピア・観光施設・2003年度派遣）	ja8ve@jarl.com（齋藤邦夫）
	群馬県JICAシニアボランティアの会	初山隆志（SV／チリ・経営管理・2015年度1次隊ほか）	mom_i_ja1@yahoo.co.jp（初山隆志）
	千葉県JICAシニアボランティアの会	渡邊要吉（SV／エルサルバドル・品質管理・2009年度3次隊ほか）	chibajicasv02@gmail.com（伊藤義博）
	静岡県JICAシニア海外ボランティア協会（SOVA）	原 義廣（SV／ウルグアイ・エネルギー一般・2007年度派遣ほか）	mikeda@minuet.plala.or.jp（池田昌弘）
	JICA中部コスモスクラブ	早瀬茂雄（SV／バマツ／養護・2015年度1次隊ほか）	hshigeo@yahoo.com（早瀬茂雄）
	JICA近畿シニアボランティアOV会	阪井靖史（SV／中華人民共和国・経営管理・2009年度3次隊）	banjing65@hotmail.co.jp（阪井靖史）
	JICA兵庫シニアOV会	長田 守（SV／ベリーズ・都市計画・2013年3次隊）	mail@jhso.org（長田 守）
分野別	ICT海外ボランティア会	石井 孝（SV／タイ・電気通信・1999年度派遣）	kato2415@jasmine.ocn.ne.jp（加藤 隆）

その他 |

種類	団体名	代表者	問い合わせ窓口
親子がJICA海外協力隊に参加	青年海外協力隊の2世代参加を促進する会	会長代行：久田守雄（マラウイ・上下水道設計・1986年度1次隊）	moriohisada@gmail.com（久田守雄）

JICA海外協力隊

OB・OG会

「在住地」や「派遣国」など、共通項で結ばれたJICA海外協力隊経験者で構成するOB・OG会。その最新の基礎情報（2019年11月現在）をまとめました。

在住地等別 | 同じ都道府県・市の在住者や出身者などで構成するOB・OG会

地域	県名等	団体名	代表者	問い合わせ窓口
北海道・東北	北海道	青年海外協力隊北海道OB会	原田晴子（チリ・歯科衛生士・2008年度1次隊）	b94110@nifty.com（吉田勉幸）
	青森県	青森県青年海外協力協会	野馬千佳子（ボリビア・村落開発普及員・2004年度2次隊）	cqt00243@nifty.com（事務局：中村信行）
	岩手県	岩手県青年海外協力協会	樋口正之（フィリピン・コンピュータ技術・2003年度1次隊）	t-kan@live.jp（事務局：菅 智美）
	宮城県	宮城青年海外協力協会	川島孝志（ボリビア・自動車整備・1994年度3次隊）	miyagi.jocv.ov@gmail.com
	秋田県	青年海外協力隊秋田県OB会	打矢佳彦（マラウイ・理数科教師・2005年度2次隊）	https://www.facebook.com/jocv.akita
	山形県	NPO法人山形県青年海外協力協会（YOCA）	渡辺直樹（モロッコ・視聴覚教育・2004年1次隊）	yamagatayoca@yahoo.co.jp（渡辺直樹、大内真里生）
	福島県	ふくしま青年海外協力隊の会	吉田淳平（ルワンダ・食品加工・2011年度1次隊）	fukushima.jocv@gmail.com（伊東瑞歩）
	茨城県	青年海外協力隊茨城県OV会	大橋 暁（モロッコ・測量・1990年度3次隊）	ov_yakuin@googlegroups.com
	栃木県	栃木県青年海外協力隊OB会	大貫泉（モザンビーク・農業土木・2011年度1次隊）	tochigi.ob@gmail.com（栃木県青年海外協力隊OB会事務局）
	群馬県	青年海外協力隊群馬県OB会	當銀譲次（ガーナ・電気機器・1985年度2次隊）	gunma_jocv@yahoo.co.jp（山口 朗）
関東・甲信越	埼玉県	青年海外協力隊埼玉県OB会	榎本 敬（タンザニア・土木施工・1994年度1次隊）	saiobkumeda@aol.com（桑田 浩）
	千葉県	青年海外協力隊千葉OB会	三次恵美子（旧姓：鳥飼／マシナル・理数科教師・2003年度1次）	info@jocvchiba.net（小山、浜田）
	東京都	青年海外協力隊東京OB会	野村一成（マラウイ・養鶏・1978年度2次隊前期）	nomura@asahishokuhin.co.jp（野村一成）
	新潟県	新潟県青年海外協力協会	渡部 悟（ミクロネシア・土木・1992年度2次隊）	sasnwatabe@yahoo.co.jp（渡部 悟）
	神奈川県	青年海外協力隊神奈川県OB会	小島海治（トンガ・音楽・1998年度1次隊）	info@kocv.jp（小島海治）
	川崎市	川崎JICAボランティアの会	内藤幸彦（エチオピア・天然痘監視員・1972年度1次隊）	fvgp7530@nifty.com（内藤幸彦）
	山梨県	山梨青年海外協力隊協会	船木良彦（ニカラグア・養護・1999年度3次隊）	k88ne23k@nifty.com（船木良彦）
	長野県	青年海外協力隊長野県OB会	杉田威志（ガーナ・理数科教師・2003年度2次隊）	info@nagano-jocv.com（杉田威志）
	富山県	青年海外協力隊富山県OB会	井上純子（日系JV／バグアイ・日系日本語学校教師・2001年度派遣）	info@jocv-toyama.jp（井上純子）
	石川県	石川県青年海外協力隊OB会	宮園達朗（ホンジュラス・水産物加工・1982年度3次隊）	goto1016@hotmail.com（後藤善久）
東海・北陸	福井県	青年海外協力隊福井県OB会	林 宏征（ニジェール・村落開発普及員・2008年度2次隊）	jocvfukui@gmail.com（事務局：白崎則子）
	静岡県	青年海外協力隊静岡県OB会	武馬千恵（セントビンセント・村落開発普及員・2008年度2次隊）	exjocv.shizuoka@gmail.com（武馬千恵）
	岐阜県	JICAボランティア岐阜県OV会	田中 勲（ボリビア・青少年活動・2008年度4次隊）	isao54tnk@gmail.com（田中 勲）
	愛知県	青年海外協力隊愛知県OB会	稲垣佳成（フィリピン・村落開発普及員・1989年度3次隊）	jocvaichioh@yahoo.co.jp（久住俊明）
	三重県	青年海外協力隊三重県OB会	竹尾敬三（ケニア・稲作・1977年度2次隊前期）	takeo331@assp.jp（竹尾敬三）
近畿	滋賀県	滋賀県青年海外協力協会（SOCA）	左近健一郎（ネパール・理数科教師・1990年度1次隊）	r.matsu@nifty.com（松村良司）
	京都府	NPO法人京都海外協力協会	坂根 均（スリランカ・自動車整備・1984年度3次隊）	office@koca.or.jp（坂根 均、苫野啓史、鎌田美保）
	大阪府	青年海外協力隊大阪府OB・OG会	大平 緑（モンゴル・青少年活動・2014年度2次隊）	osakaov@gmail.com
	兵庫県	青年海外協力隊兵庫県OB会	阪井園子（カンボジア・小学校教諭・2007年度1次隊）	tbanfreeway1738@gmail.com（伴 忠道）
	奈良県	奈良県青年海外協力協会	吉原由紀子（ヨルダン・養護・2005年度1次隊）	yukkosuke@hotmail.co.jp（吉原由紀子）
中国・四国	和歌山県	和歌山青年海外協力協会	談儀善弘（ネパール・理数科教師・1983年度1次隊）	dangiyhojp@yahoo.co.jp（談儀善弘）
	鳥取県	青年海外協力隊鳥取県OV会	谷田孝之（ニジェール・小学校教諭・2000年度1次隊）	issaissa@jt2.so-net.ne.jp（谷田孝之）
	島根県	島根県青年海外協力協会	天津貴志（ブルキナファソ・村落開発普及員・2003年度1次隊）	shimanejocvov@gmail.com（天津貴志）
	岡山県	青年海外協力隊岡山県OV会	近藤英生（モロッコ・測量・1981年度3次隊）	https://www.facebook.com/ov.okayama
	広島県	青年海外協力隊広島県OB会	竹内英祐（ウガンダ・土木・2008年度4次隊）	jocv.hiroshima.obkai@gmail.com
	山口県	青年海外協力隊山口県OB会	山尾和宏（インド・日本語教師・2010年度4次隊）	valencia0522@gmail.com（山尾和宏）
	徳島県	徳島県青年海外協力協会	中村晃一（フィリピン・溶接・2004年度3次隊）	koittyann@yahoo.co.jp（中村晃一）
	香川県	香川県青年海外協力協会	三宅康仁（ホンジュラス・小学校教諭・2011年度1次隊）	sykbp872@yahoo.co.jp（三宅康仁）
	愛媛県	愛媛県青年海外協力協会	清家央樹（マラウイ・村落開発普及員・2008年度4次隊）	weifan217@gmail.com
	高知県	高知県青年海外協力隊OB会	猪野孔太（南アフリカ共和国・電気・電子設備・2011年度1次隊）	jocv_ob_kochi@yahoo.co.jp（猪野孔太）
九州・沖縄	福岡県	福岡県青年海外協力協会	小田哲也（コロンビア・青少年活動・1997年度1次隊）	jocvfukuokakenov@gmail.com（齊藤ちづる）
	佐賀県	佐賀県海外協力協会	鶴田さゆり（中華人民共和国・幼児教育・2009年度2次隊）	xiao_i_0102@yahoo.co.jp（鶴田さゆり）
	長崎県	長崎県青年海外協力協会	渡辺督郎（ソロモン・冷凍機器・空調・1983年度2次隊）	w-tokuro@mx.b.cncm.ne.jp（渡辺督郎）
	熊本県	熊本県青年海外協力協会	山本一憲（ボリビア・農業土木・2011年度1次隊）	jocakumamoto2014@gmail.com（山本一憲）
	大分県	大分県青年海外協力協会	鈴木 馨（タンザニア・電話交換機・1986年度2次隊）	upepo777@yahoo.co.jp（鈴木 馨）
	宮崎県	宮崎県海外協力協会	清武信彦（ベトナム・家畜飼育・2007年度1次隊）	prometheus1@hotmail.co.jp（清武信彦）
	鹿児島県	青年海外協力隊鹿児島県OB会	古田宣稔（タンザニア・土木・1984年度3次隊）	furuta@hasigutigumi.com（古田宣稔）
沖縄県	沖縄県	沖縄県青年海外協力協会	神田 青（ラオス・青少年活動・2012年度1次隊）	okinawajoca@gmail.com（金城雄太）

出身校別 | 出身校が同じJICA海外協力隊経験者などで構成するOB・OG会

種類	出身校	団体名	代表者	問い合わせ窓口
大学・短大	酪農学園(大学・短期大学)	酪農学園青年海外協力隊OV会	南 繁（タンザニア・獣医師・1976年度1次隊後期）	gaia373@gmail.com（南 繁）



OB・OGによる

# 国際協力NGO

協力隊OB・OGが主宰するNGOのうち、国際協力活動に取り組む団体の一部をご紹介します。

<b>青い空の会</b> 白石光代（グアテマラ・花き・1999年度1次隊）	【グアテマラ】 子どもたちの顔が見える、支援者の声が子どもひとりひとりに届く就学支援、グアテマラの伝統文化を活かした自立支援を行う。地元の人たちの協力のもと、地域に根ざした活動を目指している。 <a href="https://www.aoisoranokai.org">https://www.aoisoranokai.org</a>
<b>NPO法人アプカス</b> 石川直人（スリランカ・環境教育・2002年度2次隊）	【スリランカ】 ソーシャルビジネスを通した社会課題解決に注力。現在、視覚障害指圧師の指圧院「Thusare Talking Hands」の運営、持続可能な農業技術の普及および有機食品店「Kenko1st」の運営を行う。 <a href="http://www.apcas.jp">http://www.apcas.jp</a>
<b>アフリカ理解プロジェクト</b> 白鳥くるみ（旧姓：川野／ケニア・家政・1978年度2次隊前期）	【アフリカ地域】 元ケニア隊員たちが中心となって設立。可能性と世界的な課題を抱えるアフリカへの関心を高め、アフリカと日本の活力へとつなげる活動（出版、教育支援、講座の企画・開催、情報提供など）を行う。 <a href="http://africa-rikai.net">http://africa-rikai.net</a>
<b>NPO法人AfriMedico（アフリメディコ）</b> 町井恵理（ニュージーランド・感染症対策・2006年度派遣）	【アフリカ地域】 「富山の置き薬」の仕組みをアフリカで展開し、人々の健康と笑顔に寄与することを目指す。現在パラレルワークのプロボノ約40人で活動。アフリカに情熱を持つ人材募集中。詳細はHPにて。 <a href="http://afrimedico.org">http://afrimedico.org</a>
<b>アラブの子どもとなかよくする会</b> 西村陽子（旧姓：柳澤／ヨルダン・養護・1992年度3次隊）	【アラブ地域（特にイラク）】 アラブ地域（特にイラク）を対象に、収入創出活動支援や、イラクと日本の子どもの交流促進にも取り組む。 <a href="http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com">http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com</a>
<b>A&amp;A（エイ・アンド・エイ）</b> 馬場節子（バングラデシュ・染色・1988年度3次隊）	【バングラデシュなど】 バングラデシュ東部で暮らす少数民族・ラカインの人々とともに、環境保護や子どもの教育支援を目的に活動する。2016年から女性の生産活動（織物）支援を開始。 <a href="http://aa2007.jimdo.com">http://aa2007.jimdo.com</a>
<b>EGAO（エガオ）</b> 原田千晶（パラグアイ・村落開発普及員・2008年度2次隊）	【パラグアイ】 教育・農業・環境・地域経済発展を軸に、パラグアイの生活水準向上に向けた活動を行う。地域に根ざす持続可能な取り組みとするため、住民主体の運営体制を構築中。 <a href="https://www.facebook.com/ong.egao">https://www.facebook.com/ong.egao</a>
<b>NPO法人Growing People's Will（グロウイング・ピープルズ・ウィル）</b> 高橋和哉（ケニア・道路設計・1990年度3次隊）	【フィリピン、パキスタン、ミャンマー】 日本国内で地域づくり・障害者支援（特に視覚障害者支援）の活動を行う一環、開発途上国の就学困難児童の支援にも取り組む。 <a href="http://www.gpw39.org">http://www.gpw39.org</a>
<b>COSPA（コスパ）</b> 明智洗一郎（SV／パナマ・農業化学・2000年度派遣）	【パナマ】 パナマの野生ランの保護（エコツーリズムに基づく保護活動の指導、住民への啓発活動）、日本での啓発活動などを行う。支援するラン保護施設「APROVACA」で2019年に協力隊員が新たに活動する予定。 <a href="http://cospa.main.jp">http://cospa.main.jp</a> <a href="https://www.facebook.com/cospanama">https://www.facebook.com/cospanama</a>
<b>シリア支援団体サダーカ</b> 田村雅文（シリア・環境教育・2005年度1次隊）	【シリア】 紛争前のシリアの日常や、紛争に苦しむ人々の声を日本で発信しつつ、他のNGOや市民グループ、メディア、ジャーナリスト、大学、民間企業などと連携して地域全体の安定を目指した活動を行う。 <a href="http://www.sadaqasyria.jp">http://www.sadaqasyria.jp</a>
<b>NPO法人シェア＝国際保健協力市民の会</b> 本田 徹（チュニジア・医師・1976年度2次隊前期）	【日本、カンボジア、東ティモール】 母子保健や保健教育の質向上、在日外国人支援、HIV／エイズ対策などの分野における活動を国内外で展開する。 <a href="https://share.or.jp">https://share.or.jp</a>
<b>スランガニ</b> 馬場繁子（スリランカ・幼稚園教諭・1986年度3次隊）	【スリランカ】 スリランカの子どもの学びや生活の環境向上を目的に、幼児教育支援、絵本出版、教育里親事業、障害児通所施設の運営、女性の生計支援などを行う。 <a href="https://surangani2014.weebly.com/">https://surangani2014.weebly.com/</a>
<b>Chemchem ya Amani Tanzania（チェムチェム・ヤ・アマニ・タンザニア）</b> 飯山尚子（旧姓：会田／タンザニア・村落開発普及員・2003年度2次隊）	【タンザニア】 孤児など学校に行けないタンザニアの子どもたちを対象に、就学支援を目的とした「里親制度」を運営する。 <a href="http://www.cat.wanakijiji.com">http://www.cat.wanakijiji.com</a>
<b>中国児童教育援助協会（CCEAS）</b> 菅 未帆（旧姓：市橋／中華人民共和国・幼稚園教諭・1994年度2次隊）	【中華人民共和国】 中華人民共和国の農村部の子どものための就学支援を行う。現在は日本からではなく中国の富裕層からの支援金を農村部へ届ける形で支援を継続。中国・日本の相互理解に向けた教育の推進にも取り組む。 <a href="http://www.cceas.net">http://www.cceas.net</a>
<b>NPO法人TICO（ティコ）</b> 吉田 修（マラウイ・医師・1988年度3次隊）	【ザンビア、カンボジア】 アフリカやアジアで保健・医療や農村開発などの分野における支援活動を行う。持続可能な自立の支援をモットーに、現地との協働を重視した活動を展開する。 <a href="http://www.tico.or.jp">http://www.tico.or.jp</a>
<b>NPO法人手をつなぐメキシコと日本</b> 横尾咲子（メキシコ・体育・2003年度2次隊）	【メキシコ】 メキシコと日本の架け橋を目指して文化交流プロジェクトを企画・運営。「文化による平和構築」をスローガンに、両国の芸術家・指導者の招聘、ワークショップや講演会、展覧会などを実施している。 <a href="http://teotsunagu.tumblr.com">http://teotsunagu.tumblr.com</a>
<b>トゥエンデ</b> 米澤真奈美（タンザニア・理数科教師・1994年度2次隊）	【タンザニア】 タンザニア産のコーヒーや布などの販売を通した同国の障害者への少額融資や鶏銀行などの支援、および異文化理解ワークショップなどに取り組む。 <a href="http://www15.plala.or.jp/twende-tanzania">http://www15.plala.or.jp/twende-tanzania</a>
<b>NPO法人日本・バングラデシュ文化交流会</b> 松本智子（旧姓：佐藤／バングラデシュ・野菜・1981年度2次隊）	【バングラデシュ】 バングラデシュ・ジェソール県シャジャ郡の農村で、地域住民参加による持続可能な大豆入り学校給食、大豆食品生産、農村女性の収入向上のための伝統刺繍製品生産を行う。 <a href="http://www.jbcea.org">http://www.jbcea.org</a>
<b>NPO法人パシフィカ・ルネサンス</b> 長岡拓也（ミクロネシア・考古学・1991年度1次隊）	【ミクロネシア連邦を中心とした大洋州】 大洋州の協力隊OB・OGや研究者が中心に設立。大洋州の島々で失われつつある伝統文化・文化遺産の記録・継承・教育を中心とした活動を進めている。 <a href="http://www.facebook.com/PasifikaRenaissance">http://www.facebook.com/PasifikaRenaissance</a>
<b>一般社団法人Bokk Jambaar（ボック・ジャンバル）</b> オンバダ香織（旧姓：福岡／セネガル・エイズ対策・2010年度3次隊）	【セネガル】 村落部における地域住民への保健教育、学校の学習環境改善、女性の収入向上活動のサポートなど、現地のカウンターパートを通じて日本から支援を行っている。 <a href="http://bokk-jambaar.org">http://bokk-jambaar.org</a>
<b>マダムけんけんのうどんハウスプロジェクト</b> 楠川富子（SV／カンボジア・基礎保健・2006年度派遣）	【カンボジア】 カンボジアの農村地区の小学校で子どもたちの健康と教育を支援する学校保健活動を展開。香川県とJICAの支援を受けて同国初の「学校保健室」をつくり、モデル校としている。 <a href="http://blog.livedoor.jp/madamu_kenken">http://blog.livedoor.jp/madamu_kenken</a>
<b>NPO法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金</b> 藤掛洋子（パラグアイ・家政・1992年度2次隊）	【パラグアイ、ボリビア、日本】 パラグアイの農村部やスラムを中心に学校教育支援や生活改善支援などを行うとともに、ジェンダー課題解決のプロジェクトを展開。2018年度よりボリビアでも生活改善の活動を開始。 <a href="http://mitai-mitakunai.com">http://mitai-mitakunai.com</a>

OB・OGによる

# SOCIAL BUSINESS

「ビジネス」を通して社会課題の解決を目指す「ソーシャルビジネス」に挑戦する協力隊OB・OGの一部をご紹介します。

【凡例】

名称（名称の読みがな） 代表者	【事業対象の国／地域】 事業概要 ウェブサイト
<b>株式会社ア・ダンセ</b> 森重裕子（ブルキナファソ・村落開発普及員・2003年度1次隊）	【ブルキナファソ】 ブルキナファソ産シアバターやモロッコ産アルガンオイルを使った石けんや化粧品、手仕事を大切にした雑貨やアクセサリーの企画・製造技術支援・販売を行う。 <a href="http://www.a-danse.jp">http://www.a-danse.jp</a>
<b>アフリカ工房</b> 前田眞澄（旧姓：鈴木／ガーナ・村落開発普及員・2001年度2次隊）	【ガーナ】 ガーナ北部の村からフェアトレードで輸入したシアバターを原料に、化粧品の製造・販売を行い、日本とアフリカを笑顔で繋ぐ。 <a href="http://www.africakobo.com">http://www.africakobo.com</a>
<b>株式会社andu amet（アンドウアメット）</b> 鮫島弘子（エチオピア・デザイン・2001年度3次隊）	【エチオピア】 世界最高峰の羊皮「エチオピアシープスキン」を贅沢に使用し、製品も製造過程も美しいものづくりを目指したラグジュアリーなレザーブランド。2018年には表参道にコンセプトストアをオープン。 <a href="http://www.anduamet.com">http://www.anduamet.com</a>
<b>株式会社アンバーアワー</b> 木村陽介（ケニア・村落開発普及員・2011年度4次隊） 岡本ひかる（ガーナ・プログラムオフィサー・2011年度4次隊）	【ケニア】 軽くて丈夫なサイズル繊維を用いたカラフルなハンドメイドのかごバスケット「ORIKAGO」をケニアの女性たちと共に企画・製造・販売する。 <a href="http://www.orikago.com">http://www.orikago.com</a>
<b>YETI COT（イエティ・コット）</b> 上坂とよ子（旧姓：渡部／ネパール・家政・1984年度2次隊）	【ネパール】 ネパールの女性自立支援団体「WSDO」の商品を中心に、同国で生産される布製品や雑貨の輸入・販売を行う。 <a href="http://yeticot.shop-pro.jp">http://yeticot.shop-pro.jp</a>
<b>縁結び工房</b> 内山千尋（タイ・日本語教師・1994年度2次隊）	【タイ・ラオスを中心とする東南アジア地域と日本】 タイやラオスの織物の村で手染め・手織りでつくられた絹緋から仕立てた茶道用帛紗を中心とする茶道小物の企画・製造・販売。茶道入門講座や、外国人を含めた初めての人のための気軽な茶会の実施。 <a href="https://emmsu-tea.jp">https://emmsu-tea.jp</a>
<b>株式会社Girls, be Ambitious（ガールズ・ビー・アンビシャス）</b> 番匠麻樹（フィリピン・村落開発普及員・2010年度2次隊）	【フィリピン】 フィリピン産のモリンガやココナツオイルなどを素材とする食品や化粧品などの企画・輸入・販売を行う。 <a href="https://www.girls-be-ambitious.com">https://www.girls-be-ambitious.com</a>
<b>カンガ屋 katikati（カティカティ）</b> 柳澤栄次（ケニア・村落開発普及員・2009年度3次隊）	【ケニア】 東アフリカの民族布「カンガ」専門店。カンガを使ったオーダーアイテムの製造・販売を行う。 <a href="https://katikati-kanga.com">https://katikati-kanga.com</a>
<b>Kenya Fruits Solutions Ltd.（ケニア・フルーツ・ソリューションズ）</b> 山本 歩（ケニア・村落開発普及員・2011年度2次隊）	【ケニア】 ケニアの農家の収入安定を目的に、干ばつ耐性の強いマンゴーやパイナップルなどを原料としたドライフルーツの製造・販売を同国で行う。 <a href="http://kenyafruitssolutions.jimdo.com">http://kenyafruitssolutions.jimdo.com</a>
<b>Semilla（セミージャ）</b> 白石光代（グアテマラ・花き・1999年度1次隊）	【グアテマラ】 グアテマラの誇る織物やビーズを使った民芸品の企画・製作・輸入・販売を行う。つくり手である村の女性たちの経済的自立を目指している。 <a href="http://semilla.ocnk.net">http://semilla.ocnk.net</a>
<b>タツノオトシゴプロジェクト</b> 丸山ちさと（ガーナ・青少年活動・2012年度2次隊）	【ガーナ】 ガーナに設立したNGOで障害者の雇用を生むために伝統織物「ケンテ」のショールの販売、日本のアパレル会社からの製品受注などを行う。 <a href="http://ta2nooto45.base.ec">http://ta2nooto45.base.ec</a>
<b>daladala.（ダラダラ）</b> 佐屋 眸（旧姓：小島／モンゴル・デザイン・2007年度3次隊）	【モンゴル、アフリカ地域】 モンゴルの羊毛フェルトやアフリカ伝統の素材を使ったハンドメイド製品の企画デザイン・輸入・販売を行う。 <a href="http://daladala.jp">http://daladala.jp</a>
<b>chaokao material（チャオカオ・マテリアル）</b> 高野蒔子（タイ・手工芸・2003年度3次隊）	【タイ】 タイ山岳少数民族の伝統刺繍や織物を使ったオリジナル雑貨（小物、アクセサリーなど）、素材の販売や卸販売を行う。 <a href="http://chaokao.org">http://chaokao.org</a>
<b>Teebom（テーボム）</b> 今井奈保子（スリランカ・村落開発普及員・1993年度2次隊）	【スリランカ、インド、ペルー、ケニアなど】 スリランカの紅茶をはじめ、インドやペルー、ケニアなど世界各国の食品や雑貨の輸入・販売を行う。 <a href="https://fairtrade-teebom.com">https://fairtrade-teebom.com</a>
<b>Vanilla House（バニラ・ハウス）</b> 小瀬一徳（バブアニューギニア・製材・1993年度2次隊）	【バブアニューギニア】 バブアニューギニアで栽培されたバニラビーンズやカカオ豆などの農産物やその他加工食品の輸入・販売を行う。 <a href="http://www.vanilla-house.com">http://www.vanilla-house.com</a>
<b>有限会社バンベン</b> 坂本 毅（中華人民共和国・日本語教師・1991年度1次隊）	【中華人民共和国】 中華人民共和国・内モンゴル自治区オルドスの砂漠緑化支援を目的に、同地産の岩塩や重曹などの輸入・販売を行う。 <a href="http://banben.jp">http://banben.jp</a>
<b>株式会社豆乃木</b> 杉山世子（ジンバブエ・ソフトボール・2000年度1次隊）	【メキシコ】 メキシコのマヤ先住民が無農業・無化学肥料で栽培する「マヤビニックコーヒー」などの輸入・販売を行う。 <a href="http://www.hagukumuhito.net">www.hagukumuhito.net</a>
<b>LakLiya（ラクリヤ）</b> 青木杏里（スリランカ・観光業・2008年度4次隊） 富山あすか（スリランカ・コンピュータ技術・2008年度4次隊）	【スリランカ】 スリランカの女性生産者団体「ラクリヤ」のハンドメイド品を中心に、スリランカ雑貨の企画・輸入・販売を行う。 <a href="http://lakliya.com">http://lakliya.com</a>



## JICA国内拠点

全国16カ所にあるJICA国内拠点。途上国と日本の各地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を生かした国際協力を市民やNGO、自治体、民間企業などと連携して推進しています。

各拠点では、JICA海外協力隊経験者を対象とする就職・キャリアアップ・スキルアップのためのセミナーや、国際協力に関連する各種セミナー・写真展などを開催しており、国際協力関連の資料なども閲覧できます。また、全国3カ所にあるJICAの「地球ひろば」では、世界が直面するさまざまな課題や、途上国と私たちとのつながりを体感できます。ぜひご利用ください。

※各拠点の所在地・連絡先などは以下のページをご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/about/structure/domestic/>

### 【国内拠点】

名称	所轄地域
①JICA北海道(札幌)	北海道(道央・道北・道南)
②JICA北海道(帯広)	北海道(道東)
③JICA東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、
④JICA二本松	福島県
⑤JICA筑波	茨城県、栃木県
⑥JICA東京	群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、 新潟県、長野県
⑦JICA横浜	神奈川県、山梨県
⑧JICA駒ヶ根	長野県
⑨JICA北陸	富山県、石川県、福井県
⑩JICA中部	静岡県、岐阜県、愛知県、三重県
⑪JICA関西	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
⑫JICA四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
⑬JICA中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
⑭JICA九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、 宮崎県、鹿児島県
⑮JICA沖縄	沖縄県

### 【地球ひろば】

名称	所在地
①ほっかいどう地球ひろば	北海道札幌市
②JICA地球ひろば	東京都新宿区
③なごや地球ひろば	愛知県名古屋

## JICA海外協力隊OB・OGへのお願い ～JICA青年海外協力隊事務局より～

### 連絡先変更・情報提供のお願い

JICA青年海外協力隊事務局では、帰国されたJICA海外協力隊員の皆様との関係を保ち、情報を共有したり、ご意見をお聞きたりすることが事業改善を進めるうえで重要だと考えています。そのため、住所変更などが生じた場合は、「住所変更届・進路現況連絡票」(下記ページより書式のダウンロードが可能)のご提出をお願いしています。年に1度、OB・OG向け『クロスロード』をお送りするためにも必要な情報になりますので、よろしくお願いします。また、皆様の周りで連絡先が変更となった方がおられましたら、「住所変更届・進路現況連絡票」のご提出をお伝え願います。なお、メールや電話、郵便等で、事業の改善や見直しに関するアンケートをお願いしたり、さまざまな分野で活躍されているJICA海外協力隊OB・OGの方のご紹介をお願いしたりすることもあるかと思いますが、その際はご協力をよろしくお願いいたします。

#### ■住所変更届・進路現況連絡票

<https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/procedures/documents>

#### ■各種届出の提出先／問い合わせ先

jvtpc-sinrosien1@jica.go.jp (JICA青年海外協力隊事務局 人材育成課)

### 2020年度応募勸奨へのご協力をお願い

より多くの方にJICAボランティア事業を知っていただくために、みなさまの力をお貸しください！ お勤め先、ご友人のお店、町内会掲示板などへのポスターの掲示にご協力いただける方は、eメール、FAXまたは郵送にてご連絡ください。

※送付枚数が上限に達した時点で、受付を締め切らせていただくこととなりますのでご了承ください。

#### ■送付物：

2020年度募集広報用ポスター  
(B3サイズ=364mm×515mm)

#### ■送付時期：

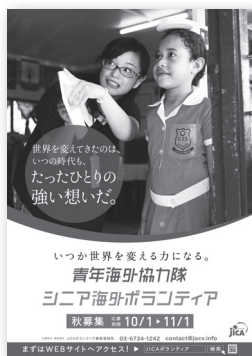
2020年3月中旬予定(折り量んだ状態で送ります)

#### ■申込・問い合わせ先：

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル  
JICA青年海外協力隊事務局 人材育成課  
e-mail: jvtpc@jica.go.jp FAX: 03-5226-6379

#### ■ご連絡いただく内容

件名：2020年度募集ポスター申込  
本文：①お名前、隊次、派遣国、職種  
②ご送付先(日本国内のみ)  
③ご希望枚数(お1人3枚まで)



募集ポスター例(デザインはお送りするポスターと異なります)



## 進路開拓インフォメーション

JICA海外協力隊経験を生かしたキャリア形成のための情報を紹介します。

### 帰国したJICA海外協力隊員へのJICAによる進路開拓支援

※対象は「青年海外協力隊」と「日系社会青年海外協力隊」の経験者です。

#### 1 進路相談カウンセラー／青年海外協力隊相談役

JICAでは、全国に「進路相談カウンセラー」や「青年海外協力隊相談役」を配置し、就職・進学をはじめとする進路開拓に必要な各種情報の提供やカウンセリングなどを行っています。2019年11月現在、全国に計18人を配置。それぞれの担当都道府県や連絡先は下記ページをご覧ください。

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/counselor](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/counselor)

#### 2 セミナー・ワークショップ

JICAでは、広い視野に立つてキャリアプランを立てることを支援するため、具体的で実践的な情報を提供するセミナーやワークショップを「国際協力」「民間企業」「地域貢献」「公務員」など進路のタイプ別に各地で開催しています。詳細は下記ページでご確認ください。

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/seminar](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/seminar)

#### 3 「帰国隊員進路情報」ページ

JICAが運営する国際協力のキャリア総合情報サイト「PARTNER」には、青年海外協力隊と日系社会青年海外協力隊の経験者を対象に、企業などの求人や進学、セミナーなど、進路開拓に関する各種情報を随時お知らせする「帰国隊員進路情報」ページを設けています。

<http://partner.jica.go.jp/CareerInfo>

#### 5 教育訓練手当

JICAでは、進路開拓に役立つ技術・技能の修得や免許・資格の取得につながる教育・訓練を受ける場合に、受講のために支払った費用の8割(上限は20万円)を支援する制度「教育訓練手当」を設けています。受給資格や申請方法などの詳細は、下記ページでご確認ください。

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/allowance](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/allowance)

#### 4 自治体・企業向け報告会・交流会

JICAでは、JICA海外協力隊経験者の進路開拓支援を目的に、JICA海外協力隊の活用に関心を持つ自治体や企業などの関係者と、帰国したJICA海外協力隊員とが集まり、活動報告や相互の交流を行う催しを開いています。詳細は下記メールアドレスまでお問い合わせください。

[jvtpc-sinrosien5@jica.go.jp](mailto:jvtpc-sinrosien5@jica.go.jp) (JICA青年海外協力隊事務局人材育成課 帰国後研修・交流会担当)

#### 6 JOCV枠UNV制度

JICAは国連ボランティア計画(UNV)と提携し、UNVが各国に派遣するボランティア(国連ボランティア)にJICA海外協力隊経験者が参加する際の費用を負担する制度「JOCV枠UNV」を設けています。詳細は下記ページをご覧ください。

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/unv](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/unv)

### JICA海外協力隊経験者等の優遇措置

(地方自治体職員・地方自治体公立学校教員採用試験／大学・大学院入試)

右記ウェブサイトでは、JICA海外協力隊経験者に対し、自治体職員・公立学校教員の採用試験で特別選考制度を設けている自治体や教育委員会、入試などで優遇措置を取っている大学・大学院を紹介しています。

- ▶自治体職員採用試験における特別措置等  
[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/careerinfo/pdf/jichitaisokuin.pdf](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/careerinfo/pdf/jichitaisokuin.pdf)
- ▶公立学校教員採用試験における特別措置等  
[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/careerinfo/pdf/kyouin.pdf](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/careerinfo/pdf/kyouin.pdf)
- ▶大学・大学院の入学試験における特別措置等  
[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/careerinfo/pdf/daigaku\\_yugu.pdf](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/careerinfo/pdf/daigaku_yugu.pdf)



# JICA海外協力隊の“今”がわかるウェブサイト

OB・OGがつながる・知る・参加するためのサイトをご紹介します。  
「JICA海外協力隊」ウェブサイトトップページ ▶▶▶ <https://www.jica.go.jp/volunteer/>

## JICA青年海外協力隊事務局公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/jicavolunteer>

青年海外協力隊事務局の公式Facebookページでは、JICA海外協力隊に関するさまざまな情報をお伝えしています。派遣中隊員の活動、テレビなどのメディアへの登場、JICA海外協力隊に関連するイベントなどの情報などを随時紹介。「いいね!」をお待ちしています。



## JICA青年海外協力隊事務局公式Twitterアカウント

<https://twitter.com/jocvjimukyoku>

JICA海外協力隊に関連すること、派遣国の話題、日本国内でのイベントなど、さまざまなことをやわらかめにつづやっています。ぜひフォローをお願いします。



## YouTube/JICA青年海外協力隊事務局公式チャンネル

<https://www.youtube.com/user/jicajocvsv/>

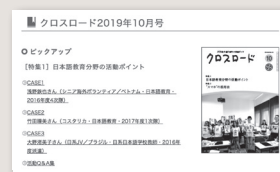
協力隊OB・OGが活躍する現場を俳優の斎藤工さんが訪れるテレビ番組『いつか世界を変える力になる』(2019年3月にBSフジで放送)を公開中です。



## JICA海外協力隊『クロスロード』

<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/index.html>

JICA海外協力隊にとってはお馴染みの『クロスロード』誌を読むことができます！  
JICAウェブサイト内での公開を始めましたので、ぜひご覧ください。



# OB・OGのお役立ち素材・サイト

JICAウェブサイトでは、進路開拓や協力隊経験の発信に役立つ情報・ツールを紹介しています。  
ぜひご活用ください。

## OB・OG向け各種イベント情報

<https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/info/events>

帰国したOB・OGが主催するイベントの情報を、JICAのウェブサイト内に掲載しています。  
掲載申請手続きを行うことでイベントの告知もできます。  
掲載を希望される場合は、掲載申請手続きの案内ページをご覧ください。



## JICA地球ひろばHP内「先生のお役立ちサイト」

<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/index.html>

先生のお役立ちサイトでは、先生に限らず、出前講座や国際理解教育・開発教育でご活用いただける教材の掲載や配布、貸出をしています。  
映像教材などのダウンロードもできます。



※上記ウェブサイトは変更の可能性がございます。予めご了承ください。